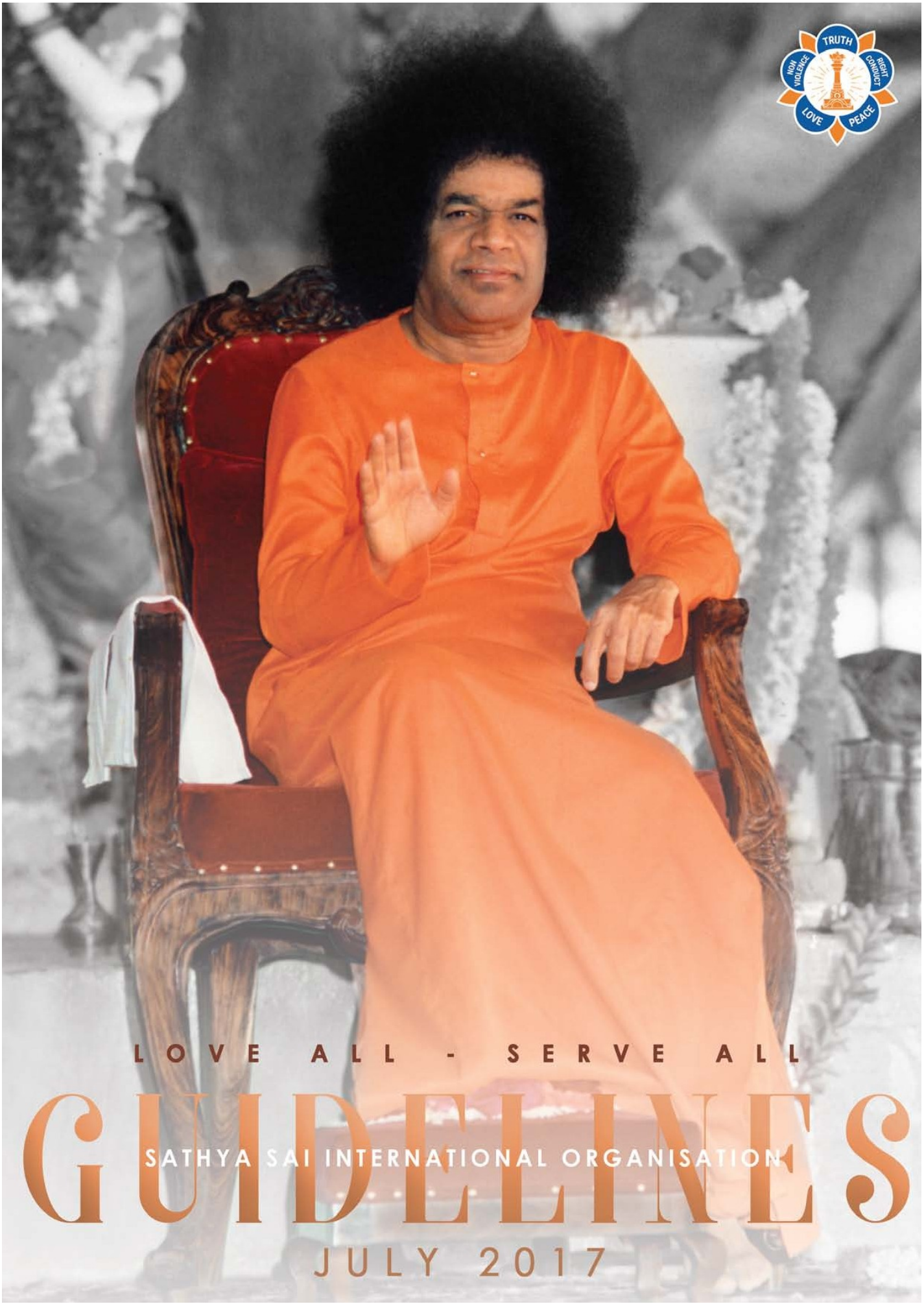


LOVE ALL - SERVE ALL

GUIDELINES

SATHYA SAI INTERNATIONAL ORGANISATION

JULY 2017

ガイドライン

2017年7月

サティヤ サイ 国際 オーガニゼーション

すべてのメディアにおける本文書の版権・著作権を有するサティヤ サイ国際オーガニゼーションの事前の許可なしに、本文書の一部または全部の原文および翻訳文を複写・転載すること、検索システムに取り込こむこと、電子的、機械的、いかなる形式、手段で複写、記録することを禁じます。

制作：サティヤ サイ 国際 オーガニゼーション
www.sathyasai.org

ॐ

PHONE: KOTHA CHERUVU 30
WHITEFIELD 33

BHAGAWAN SRI SATHYA SAI BABA

PRASHANTI NILAYAM (A.P.)

Date.....

PRAYER

Oh! Lord! Take my love and let it flow in fullness or devotion to Thee
" Take my hands and let Them work incessantly for Thee
" Take my Soul and let it be merged in one with Thee
" Take my mind and thoughts and let Them be in ~~tune~~ tune with Thee
" Take my everything and let me be an instrument to work.

With Love and Grace
Baba.

祈り

〔スワミが寮の男子学生のためにお書きになった祈りの言葉〕

おお！ 主よ！ 私の愛を受け取って
その愛が帰依の心に満ちて あなたへと流れるようにしてください

おお！ 主よ！ 私の両手を取って 絶えずあなたのために働かせてください

おお！ 主よ！ 私の魂を受け取って あなたと一つに融け込ませてください

おお！ 主よ！ 私の心と思考を受け取って あなたと調和させてください

おお！ 主よ！ 私のすべてを受け取って 私をあなたのために働く道具にしてください

愛と恩寵を込めて
ババ

目次

第１章：
はじめに.....8

第２章：
サイ ババの御教えからの根本原則.....9

第３章：
サティヤ サイ 国際 オーガニゼーションの目的 12

第４章：
サティヤ サイ 国際 オーガニゼーションの構造.....14

プラシャーンティ評議会（カウンシル）とシュリ サティヤ サイ世界財団（ワールド ファウンデーション）.....14
国際委員会 15
ゾーン・リージョン・国.....16
SSIOの年長のリーダーの義務 17
ゾーン会長とセントラル コーディネーターの誓約と責務.....17
国の評議会（カウンシル）と調整委員会の誓約と責務.....18
ソーン、国、センター／グループの活動・催事・プログラムの報告.....19
情報／連絡事項の伝達 19
SSIOのロゴマーク.....20
重要なリソース 21

第５章：
SSIO内の一体性.....23

第６章：
サティヤ サイ センターのプログラムと活動 24

サティヤ サイ センター と サティヤ サイ グループ.....24
普遍性.....25
ひとすじの信愛 26
会員制.....26
９つの行動規定.....26
１０の指針 27

サティヤ サイ センターの主たる三部門〔翼／ウィング〕 28
信愛部 28
教育部 28
奉仕部 29
レディース セクション 30
ヤング アダルト プログラム 30
サティヤ サイ センターの役員 32
情報／連絡事項の伝達 36
パブリック アウトリーチ、メディア、アーカイブ、人道救助 37
Webサイトとソーシャル メディア 38
知的財産所有権 38

第７章：
集会の種類と新しく来た人の歓迎 39
定例会 39
会員ミーティング 39
客人の会 40
新しく来た人とビジターを歓迎する 40
サティヤ サイの大会やリトリート 40

第８章：
国際サティヤ サイ ヤング アダルト 41

第９章：
地域社会でのサイの教育活動 43
サティヤ サイ教育協会（ISSE） 44
サティヤ サイ スクール 44
地域社会におけるSSEHVの設置 44
ティーンとヤング アダルトのためのSSEHV 45
サティヤ サイ ペアレンティング〔親としてのあり方／子育て〕 45

第１０章：
法務、管理、信託の事項 46

第1章 はじめに

ガイドラインの沿革： 国際サティヤ サイ オーガニゼーションは、50年以上前にサティヤ サイ ババの祝福と指導を受けて設立されました。2014年7月10日に、国際サティヤ サイ オーガニゼーションは、サティヤ サイ国際オーガニゼーション（SSIO）と改名されました。

2010年、サティヤ サイ ババの承認を得て、全SSIOに広く適用される一連のガイドラインを作成するためのガイドライン委員会が設立されました。『ガイドライン』は2012年8月に発行されました。本『ガイドライン』は2017年時点でのSSIOの構造と活動の変化を反映すべく更新されています。

『ガイドライン』は、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループを含めたSSIOの原則、構造、慣行、活動を簡潔に記述しています。本『ガイドライン』は、プラシャーンティ評議会（カウンシル）が発行する推奨事項／勧告によって、随時、補完されます。『ガイドライン』は、オーガニゼーションの役員と会員の使用を意図すると共に、オーガニゼーションへの参加に関心のある人をガイドすることもできます。

『サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループのための運営マニュアル』という別の文書には、サティヤ サイ センターが実施するさまざまなプログラムに適用される規則と規定、および、役員の義務と責任が詳しく説明されています。

ガイドラインの趣旨： サイの御名を冠した組織は、サイの教え、さらには、サイの使命を実践することに身を捧げることを選ぶ人々のために存在します。ガイドラインは、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの中、および相互間、そして、それらとプラシャーンティ評議会（カウンシル）、シュリ サティヤ サイ世界財団（ワールド ファウンデーション）（SSSWF）、国際委員会とが和をもって働くために提供されています。また、ガイドラインは、各国のSSIOを拘束する現地の法律によって定められている義務を補完します。

上に述べたように、ガイドラインはSSIOの理想とする原則、構造、慣行、活動を明記しており、それらはサティヤ サイ ババの著述と講話における教えに一致しています。世界中のすべてのサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループにそれらが適用されると同時に、サティヤ サイ ババの教えと一致している場合に限り、地元の宗教、文化、伝統、習慣、状況に合わせる必要があることも認識されています。サティヤ サイ センターのリーダーは、ここで推奨されているものと異なることを採用しようとする場合には、国の評議会（カウンシル）会長を通して、ゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談することができます。最終的に、ガイドラインは愛を込めて実行されます。というのは、愛が源であり、サティヤ サイのあらゆる尽力の道であり目的だからです。

ガイドラインを読む際には、サティヤ サイ ババは新しい宗教を確立したり特定の宗教を発展させたりするために来られたのではないことを覚えておくことが重要です。それどころか、サイの生涯とメッセージは、あらゆる宗教と信仰の伝統に従う者たちに、より真剣に自分の信仰を実践することを奨励、支援しています。「ハートとハートの触れ合い」という原則は、サイの教え、および、『ガイドライン』と『運営マニュアル』に従うことを望んでいるすべての人が、SSIOに積極的に参加することを歓迎され、奨励されることを意味しています。

サイ ババの教えからの根本原則

第2章

サティヤ サイ ババは、人類すべてに向けて教えを与えてくださいました。そして、その中には、サイの御名を冠する組織に向けた多数の神聖なガイドラインも含まれています。サイの教えは、SSIOの構造、規則と規定、そして、活動の土台です。ガイドラインは、それ相応のものとして読まれるべきです。以下の引用は、SSIOの効果的な運営に関するサティヤ サイ ババの核心的な見解を強調しています。

オーガニゼーションの主な目的

サティヤ サイ オーガニゼーションの主な目的は、人が自らの内なる神性に気づくよう助けることです。〔中略〕 ですから、あなた方の務めは、自分が行うこと、話すことすべてにおいて、一なるものを強調し、一なるものを体験することです。宗教や宗派、地位や肌の色の違いを重視してはなりません。あなた方のあらゆる行いに、一つであるという思いを染みこませなさい。このオーガニゼーションに居場所があるのは、これを行う人だけであり、その他の人たちは脱退してもかまいません。

サティヤ サイ ババ、1975年1月6日

オーガニゼーションの目標

私の名前を冠したオーガニゼーションは、私の名前を宣伝することや、私への崇拝から新たなカルトを作るために使われるべきではありません。神の御名の唱名、瞑想、その他、人を神へと向かうようにと導く霊性修行への関心を、広めるようにしなければなりません。バジャンを歌うことや神の御名を憶念することから得られる喜び、善き仲間から得られる平安を、実際に示して見せなければなりません。無力な人々、病人、困窮した人々、文盲の人々、助けの必要な人々への無私の奉仕をしなければなりません。私の名前を関した団体の奉仕は、ひけらかしであってはなりません。また、何の見返りも求めてはいけません。奉仕の受け取り手からの感謝や謝辞すらもです。

サティヤ サイ ババ、1968年2月23日

神の恩寵を得るための一体性

サティヤ サイ オーガニゼーションの会員は、一体性をまさに命の息吹と考えるべきです。

〔サティヤ サイ ババ、1998年11月20日〕

一体性を見る者は、一なる者の恩寵を勝ち取ります。

〔サティヤ サイ ババ、1971年7月23日〕

包括的なものの見方

神の本質を理解するためには、包括的なものの見方を培い、拡がる愛という包容力のある概念を培わなければなりません。

Summer Showers in Brindavan1979 p63　〔サティヤ サイ ババ、1979年〕

一つの宗教があるだけです。それは愛の宗教です。一つのカーストがあるだけです。それは人類というカーストです。一つの言語があるだけです。それはハートの言語です。一つの神がいるだけです。神は遍在です。

Summer Showers in Brindavan 2000 p8〔サティヤ サイ ババ、2000年〕

自己変容が第一の焦点

社会を変えるために第一に必要なことは、個人が変わることです。あなたのハートを清らかにしなさい。そうすれば社会も清らかになるでしょう。

サティヤ サイ ババ、1998年1月14日

どんなサーダナ（霊性修行）をしても、どれほどたくさん神の御名を唱えても、神はそうした基準では人を判定しません。あなたのハートの変容はどうですか？ ハートの変容がなければ、サーダナは何の役に立つでしょう？

サティヤ サイ ババ、1995年4月9日

教えの一切にもかかわらず、人の振る舞いに真の変容が起こっていません。もし人が前より清らかになっていかないのであれば、バジャンやサットサンガ（善人との交わり）は何の役に立っているのでしょう？ 善人との交わりを通じて、人は善い思いを育まなければなりません。善い思いは、やがて人をジーヴァン ムクティ（生きながらにして真我顕現を得ること）へと導きます。

サティヤ サイ ババ、1996年5月15日

オーガニゼーションにおけるサティヤ サイ ババの遍在

オーガニゼーションの各部門はサティヤ サイの名前を冠しています。それぞれの部門のそれぞれの活動をインスパイアするのはサティヤ サイです。あなた方の多くは、この事実をハートに留めていません。サイが、それぞれの働き手の内なるインスピレーションであり、光なのです。

サティヤ サイ ババ、1978年11月22日

オーガニゼーションにおける身内意識と愛

私たちは身内である、神の中で一つであるということ、根本的なアートマの唯一性に気づくなら、誰も故意に他人に痛みや悩みをもたらそうとはしなくなるでしょう。あなた方の組織を、愛を深めるもの、愛を振り撒くもの、愛の香りが漂うものにさせ、手本を示すことによって愛の福音を説きなさい。

サティヤ サイ ババ、1967年12月20日

このオーガニゼーションでは、ここに主がいて、助け、助言し、指導することができます。ここでは、あなたの心に浮かんだ気まぐれな考えや願望に応じて振る舞うことはできません。あなた方は、いつ、どこにいても、つねに注意していなければなりません。

サティヤ サイ ババ、1971年5月14日

義務には、オーガニゼーションの効率的な活動のために作られた規則と規定への忠実な固守が伴います。

サティヤ サイ ババ、1974年1月4日

オーガニゼーションにおける宗教の一元性

真理（神）は一つです。同じパラマートマ（至高の魂）が、ラーマ、クリシュナ、キリスト、アッラーといったように、異なる名前で呼ばれているのです。これが大原則であり、サイ オーガニゼーションはその上で働いているのです。宗教の一元性はサイ オーガニゼーションの主要な支えです。誰に対しても悪意（憎しみ）を抱いてはなりません。同じ神がすべてに内在しているのです。

サティヤ サイ ババ、1975年1月6日

オーガニゼーションにおいて個々人が普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）を実践すること

私の教えに従うことで十分です。それは、極めて厳しい苦行をすることよりも、あなたのため

になるでしょう。サティヤ（真理）、ダルマ（正義）、シャーンティ（平安）、プレーマ（愛）を実践しなさい。これらは私にとって大切なものです。これらの理想を、いつも自分の目の前に、あらゆる思いと言葉と行動の中に、留めておく決意をしなさい。それはあなたに、神の至高の本質への帰融という最高善を授けることができます。

サティヤ サイ ババ、1968年5月17日

五つのプラーナ（生気）よりも生命力に満ちた、真実（サティヤ／真理）、ダルマ、平安、愛、非暴力は、万人の命を支える呼吸です。その中でも、一番偉大なものは、愛です。あなたを愛でいっぱいにしなさい。愛は、社会への奉仕という形で現れるべきです。あなた方は、そのやり方で社会の面倒を見るべきです。私たちは社会のためにあり、社会は万人にとって善いことのためにあるのです。奉仕をして、あなたの周りのすべての人に喜びと慰めを広げることで、あなたの生活を神聖なものにするよう努めなさい。

サティヤ サイ ババ、1985年12月11日

無私の奉仕の重要性

私の名を冠したオーガニゼーションは、私の名前を広めることや、私への崇拝を軸とする新たなカルトを作ることに使われるべきではありません。オーガニゼーションは、助けがなければ生きていけない人、病人、悩み苦しんでいる人、無学な人、貧しい人に、セヴァ（無私の奉仕）をしなければなりません。オーガニゼーションのセヴァは見せびらかしであってはなりません。見返りを求めてはなりません。受け手の感謝や謝辞すらもです。

サティヤ サイ ババ、1968年2月23日

人は、無私の奉仕をするために生まれます。無私の奉仕だけが、人類の唯一性を獲得することができます。唯一性を通じてのみ、人類は神性に到達できます。ですから、奉仕は、多様性の中の唯一性を理解するために非常に重要なのです。人々は、奉仕とは見捨てられた人や弱者への援助を意味する、という印象を持っています。自分は他人に奉仕していると考えるのは大きな間違いです。実のところ、あなたはあなた自身に奉仕をしているのです。なぜなら、アートマという同一の原理、愛という同一の原理は、万人の中に存在しているからです。

サティヤ サイ ババ、2000年11月20日

無私の奉仕は、瞑想、バジャン、ヨーガといった霊的進歩のための他の方法よりも、高位の手段です。なぜならば、人が瞑想やジャパやヨーガをするときには、自分のためにするのであって、他人のためにするわけではないからです。それらは、個人の欲求を支配すること、自分自身の幸せを確保することを目的としています。私たちが目指すべきことは、個人的な利益を求めずに他人のためになることを成し遂げることです。

サティヤ サイ ババ、1990年11月24日

誓い

このセヴァ オーガニゼーション〔サイ オーガニゼーションのインド名〕を発展させ続けるために、全員が誓いを立てるべきです。すべての人を中に入れなさい。すべての人を神の子であると見なしなさい。あなたが誰に奉仕しようとも、自分は兄弟姉妹に奉仕しているのだと考えなさい。そうして初めて、神はあなたの内に顕現します。あなたは間違いなく神のビジョンを得るでしょう。あなたは間違いなく短期間でその素晴らしい経験をするでしょう。〔中略〕 オーガニゼーションから立ち去った人は不幸な人です。不幸な人になってはなりません。何が起ころうと、このセヴァ オーガニゼーションとの関係を断ってはなりません。オーガニゼーションをあなたの命の息吹と見なし、誠の決意をもって以上のことを行いなさい。これが私の望むことです。サイの愛は、あなたと共にあり、また、何であれ、あなたがすることの中にあるでしょう。

サティヤ サイ ババ、1990年11月24日

第3章 サティヤ サイ 国際 オーガニゼーションの目的

サティヤ サイ オーガニゼーションの主な目的は、人類が自らに本来備わっている神性に気づくのを助けることです。

サティヤ サイ ババ、1975年1月6日

サティヤ サイ オーガニゼーションは、愛と非暴力という原則を日々の実践に移すために設立されました。

サティヤ サイ ババ、1970年11月20日

サティヤ サイ国際オーガニゼーション（SSIO）： SSIOの主な目的は、神への信仰を増すこと、そして、すべての人、そして、神の創造したものすべてに内在する神性の自覚を人々の中に目覚めさせることです。SSIOは、人類の中にある人間的卓越を開花させるためにサティヤ サイ ババによって創設された霊性（スピリチュアル）団体であり、宗教、カースト、肌の色、信条などに基づいた区別を認めていません。このことは、サティヤ（真実／真理）、ダルマ（正義）、シャーンティ（平和）、プレーマ（愛）、アヒムサー（非暴力）という5つの普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）を、日常生活の中で、実践と模範によって伝えていくことによって達成されます。

サティヤ サイ ババの生涯、その模範と教えが、SSIOの基盤でありガイドです。SSIOの構造と活動は、サティヤ サイ ババの教えの普遍性と、すべての創造物における多様性の中の唯一性を映し出しています。したがって、サティヤ サイ センターの会員の宗教的な信条と習慣を尊重すると同時に、多様な宗教、文化、民族的背景を持つ会員の集う場での宗教的儀式はできる限り避けられています。サティヤ サイ ババは、サティヤ サイ オーガニゼーションは個々人の愛を広げることを意図しており、これはサティヤ サイ センターにおけるすべての活動の基盤であると、お説きになっています。

単一の統一組織： SSIOは、以上の主たる目的を進めていくために、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループのあるすべての国において、単一の統一組織として運営されています。それは、名前と形の統一を図ることによって実現されます。すべての国において、私たちは「サティヤ サイ国際オーガニゼーション＋国名」〔日本の場合はサティヤ サイ国際オーガニゼーション ジャパン〕と呼ばれています。世界中のサティヤ サイ センターの構造と慣行には、サティヤ サイ ババの教えと指示に従うことによる、いくつかの共通の特徴があります。上に述べたように、現地の習慣や状況によって要される場合には、それがサティヤ サイ ババの指示と教えに一致していて、SSIOの主たる目的を促進するものである限り、サティヤ サイ センターは、ゾーン会長やセントラル コーディネーターの承認を得て、慣行をいくぶん変更することができます。

サティヤ サイ センター： サティヤ サイ センターは、地元の地域社会の会員で構成された、上記の主な目的を達成するための主要な道具です。サティヤ サイ センターは、サティヤ サイ ババの教えを学び、内省し、実践する機会を作ることによって、センターの会員の信愛を養う、という愛のある環境を提供します。サティヤ サイ センターは、奉仕活動を通して、そして、サイの教えに対する認識を作り出すことによって、サイの神聖な愛を地元の地域社会に広げることにも尽くします。

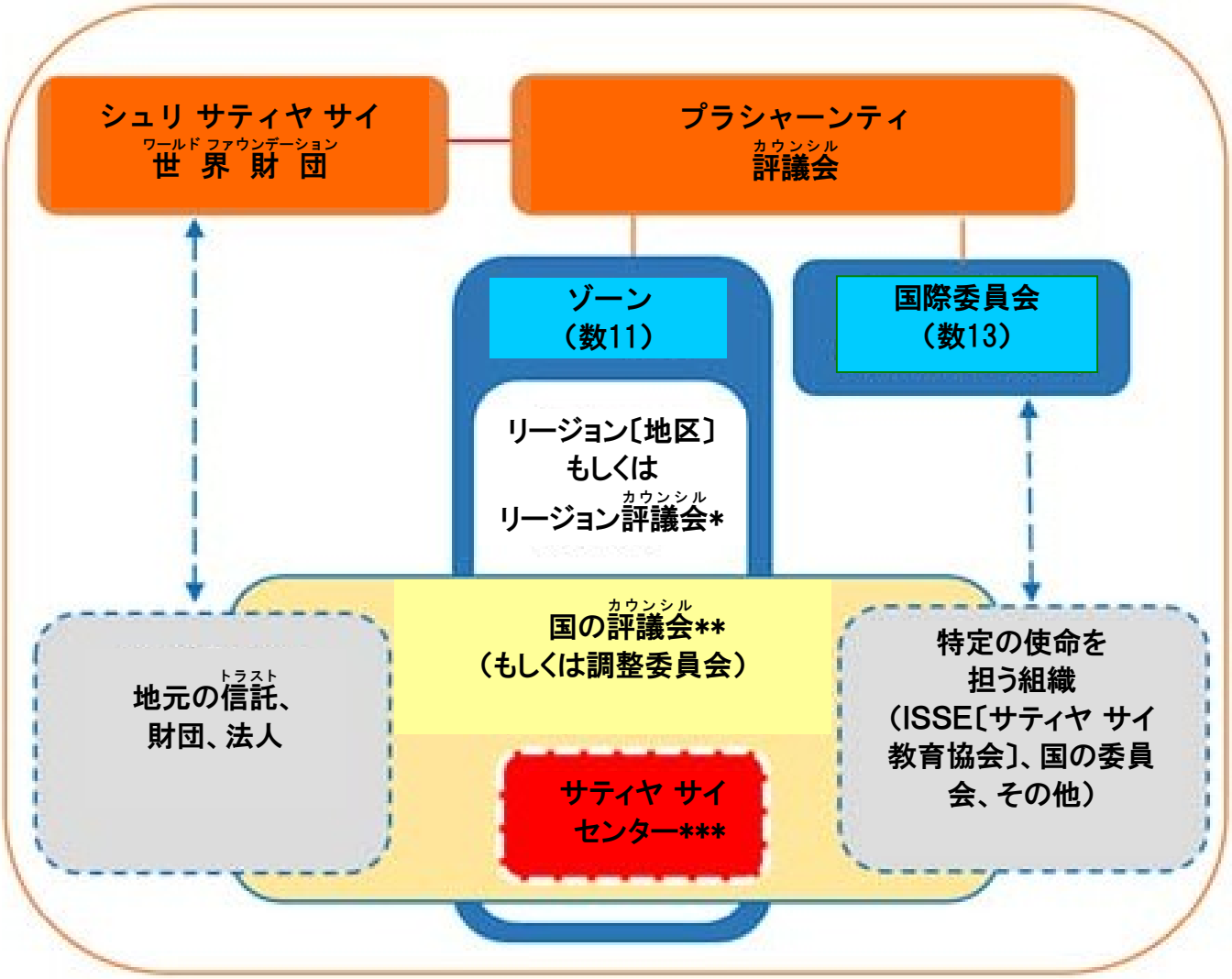
世界中のどのサティヤ サイ センターも、SSIOに欠くことのできない一部であり、サティヤ サイの使命への奉仕における単一にしてダイナミックなビジョンを世界中の他のサティヤ サイ センターと共有しています。このように、すべてのサティヤ サイ センターは、地元の地域社会のニーズに応えながら、SSIOの活動のグローバルな視点も保ちつつ活動に参加しています。

SSIOを通じた霊的変容：　SSIOで奉仕するにあたり、すべての役員、会員、そして、帰依者は、心を浄化することと、知性を磨くこと、という対のプロセスに、つねに従事しているようにします。そうしている中で、私たちは、あらゆる創造物へのサティヤ サイ ババの愛と、サティヤ サイ ババの教えの、生きた手本となるのです。

第4章 サティヤ サイ国際オーガニゼーションの構造

組織図： オーガニゼーションの業務を有効に管理するために設計された構造は次のとおりです。

サティヤ サイ 国際（インターナショナル） オーガニゼーション (SSIO)+



+ SSIOは一つの統一組織であり、上の表に示されているすべての機関を包含しています。

* ゾーンは国々から成るグループを監督するリージョンの評議会（カウンシル）によって地理的な地区に整理されることができます。

** リージョンの評議会（カウンシル）によって統括されている国には、国の評議会（カウンシル）の代わりに（国の）調整委員会が存在します。

***管理目的のために、国は国内地域を定めて、その下にサティヤ サイ センターをグループ分けすることができます。

プラシャーンティ評議会（カウンシル）とシュリ サティヤ サイ世界財団（ワールド ファウンデーション）

プラシャーンティ評議会（カウンシル）の義務： 2004年11月、サティヤ サイ ババは、SSIOを統括する組織としてプラシャーンティ評議会（カウンシル）を設立なさいました。〔＊評議会（カウンシル）というのは機関であって会議そのもののことではない〕サティヤ サイ ババの指導に従ったプラシャーンティ評議会（カウンシル）の義務と責務は次のとおりです。

1. オーガニゼーションのさまざまな構成ユニットを、世界中で指導、監督する。

2. 海外諸国のオーガニゼーションのための規則と規定を作成し、提供する。

3. オーガニゼーション、および、オーガニゼーションの構成ユニットに関して正式な意思決定が必要とされるすべての事柄において、決定を行う。

4. 必要に応じて、随時、オーガニゼーションの会員や役員の会合を開催する。

5. 各リージョンのオーガニゼーションの活動に関連する情報を集める。

6. 必要な場合には、随時、オーガニゼーションの委員会と推進本部を結成、監督する。

シュリ サティヤ サイ世界財団（ワールド ファウンデーション）の義務： 2006年3月、サティヤ サイ ババは、SSIOに関する法務および財務を監督するために、サティヤ サイ世界財団（ワールド ファウンデーション）（SSSWF）を設立なさいました。SSSWFは、法務と財務に関する正当の最高基準がつねにサティヤ サイ ババの教えに従って守られていることを確実するためのガイダンスを、世界中のサティヤ サイ信託（トラスト）に提供します。サティヤ サイ信託（トラスト）からの連絡は、管理機関であるプラシャーンティ評議会（カウンシル）を通じて行われます。

国際委員会

国際委員会は、各委員会の名称が特定している分野に焦点を当てるために、プラシャーンティ評議会（カウンシル）の賛助の下に設立されました。国際委員会は、SSIOの特定の活動分野を、計画、調整、指導し、世界中のサティヤ サイ センターが現地で行う活動に対する指導と援助を提供します。国際委員会は、世界中のサティヤ サイ センターの会員、帰依者、その他が、霊的（スピリチュアル）な巡礼やリトリート〔静修〕や大会のためにプラシャーンティ ニラヤムを訪れる際、その人たちに奉仕します。

国際委員会は、世界中のサティヤ サイ センターから、霊性（スピリチュアリティ）、教育、奉仕のプログラムを実行する中での各国の経験を、貴重な意見として受け取ります。こうした相互支援は、サティヤ サイ ババの名の下に世界中で活動を実行する際の、協調的で意義深いグローバルな努力を確実にします。

国際委員会の会員には、国際レベルでサティヤ サイ ババとSSIOに奉仕するための関連スペシャリストの養成を受けた、スキルと経験を備えた世界中のサティヤ サイ センターの役員と会員が含まれています。本ガイドラインの発行時点での国際委員会は以下のとおりです。

- アーカイブ〔記録〕委員会
- 教育委員会
- 環境委員会
- イベント（国際）委員会
- おもてなし（プラシャーンティ ニラヤムへの訪問者に対するもの）委員会
- 人道救助委員会
- IT委員会
- 知的財産所有権委員会
- メディア委員会
- 医療委員会

- パブリック アウトリーチ委員会
- 資源管理委員会
- ヤング アダルト〔旧名称ユース〕委員会

ゾーン・リージョン・国

管理の概要： SSIOは、インド国外のサティヤ サイの使命を果たします。SSIOは、管理上、地理的に11のゾーンに分けられています。ゾーンは1つあるいは複数のリージョンに分けられる場合もあります。 SSIOは、プラシャーンティ評議会(カウンシル)が任命したゾーン会長やセントラル コーディネーターによって監督されている、国の評議会(カウンシル)あるいは調整委員会を通じて、世界中の国で働いています。

サティヤ サイ の使命を果たす上で、その行いと名前の一致を促進するため、また、SSIOの主な目的をあらゆる国で実行する際の一貫性を確実にするために、加盟しているすべてのサティヤ サイ センター、サティヤ サイ グループ、サティヤ サイ信託(トラスト)、ISSE〔サティヤ サイ教育協会〕、サティヤ サイ スクール、および、サティヤ サイ ババの御名を用いている各国のその他の組織は、プラシャーンティ評議会(カウンシル)とSSSWFの賛助の下に、ゾーン会長、セントラル コーディネーター、および国の評議会(カウンシル)あるいは調整委員会と協力して働きます。

ゾーン： 2017年時点のSSIO地理ゾーンの構成は次のとおりです。（詳細または最新情報については、SSIOのWebサイトwww.sathyasai.orgを参照してください。）

- **ゾーン 1：** アルバ、バルバドス、キュラソー、ガイアナ、ジャマイカ、セント クリストファー、セント ルシア、セント マーチン、スリナム、トリニダードとトバゴ、アメリカ合衆国、バージン諸島
- **ゾーン 2A：** コスタリカ、キューバ、ドミニカ、エル サルヴァドル、グアドループ、グアテマラ、ハイチ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマ、プエルト リコ
- **ゾーン 2B：** アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、エクアドル、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ヴェネズエラ、ガイアナ
- **ゾーン 3：** オーストラリアとパプアニューギニア、フィージー、ニュージーランド
- **ゾーン 4：** ブータン、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ネパール、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ
- **ゾーン 5：** 中国、香港、日本、台湾
- **ゾーン 6：** ボスニア ヘルツェゴビナ、クロアチア、フランス、ギリシャ、イスラエル、イタリア、マケドニア、ルーマニア、セルビア／モンテネグロ、スロヴェニア、スペイン、スイス
- **ゾーン 7：** オーストリア、ベルギー、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、ラトヴィア、リトアニア、オランダ、ポーランド、スロヴァキア、スウェーデン、英国

ゾーン 8： アゼルバイジャン、ベラルーシ、カザフスタン、キルギスタン、モルドヴァ、ロシア、ウクライナ、ウズベキスタン

- **ゾーン 9A：** ベニン、ボツワナ、カメルーン、コンゴ、ガボン、ガーナ、ケニヤ、マダガスカル、マラウィ、モーリシャス、モロッコ、ナイジェリア、シエラ レオネ、南アフリカ、タンザニア、トーゴ、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ

- **ゾーン 9B：** アブダビ（UAE）、バーレーン、ドバイ（UAE）、イラン、クウェート、オマーン、カタール、ルワイス、サウジアラビア、シャールジャ（UAE）、シリア、トルコ

SSIOの年長のリーダーの義務

以下のリストは、助けとなることを意図したものであり、徹底するものではありません。

ゾーン会長とセントラル コーディネーターの誓約と責務

1. ゾーンの総責任者として、ゾーン会長は、セントラル コーディネーターの援助を得て、ゾーン内のすべての国がSSIOの活動を通して霊的（スピリチュアル）な気づきを深められるよう、動機づけ、支援する。

2. サティヤ サイ信託（トラスト）、ISSE、およびサティヤ サイ スクールの活動を含む、ゾーン内の国のすべての活動を監督および指導する。

3. プラシャーンティ評議会（カウンシル）の承認をもって、国の評議会（カウンシル）あるいは調整委員会の会長を任命する。

4. SSIOのプログラムに関する情報を広め、ゾーン内のすべての国の評議会（カウンシル）あるいは調整委員会に、プラシャーンティ評議会（カウンシル）の発表、決定事項、推奨事項、ガイドラインを伝え、かつ、それを実施する。

5. プラシャーンティ評議会（カウンシル）によって割り当てられたその他の活動を実施する。

6. セントラル コーディネーターは、ゾーン会長と協議の上、ゾーン内のメディアとの接触、出版、および、ゾーン内のそれぞれの副会長の選任を担当する。

7. サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの活動に関する定期報告書をプラシャーンティ評議会（カウンシル）に送信し、かつ、SSIOが毎年実施するオンライン年次調査が、指定された日付までに、ゾーン内の国の評議会（カウンシル）の会長、および、サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの会長によって正確に完了することを確実にする。

8. サティヤ サイの御名、および／あるいは、SSIOの福利を危うくするような状況に対して、国の評議会（カウンシル）の行動を監督、支援することによって介入する。

9. グル プールニマー祭とサティヤ サイ ババの御降誕祭の期間にプラシャーンティ評議会（カウンシル）が招集するプラシャーンティ ニラヤムでの会合に出席する。

10. 必要と考えられた際には、随時、ゾーンのリーダーの会合を開催する。

国の評議会(カウンシル)と調整委員会の誓約と責務〔＊評議会および調整委員会は会議ではなく機関の名称〕

1. 国の評議会(カウンシル)の会長と副会長は、国のSSIOに付随するすべての方針、プログラム、手順を担当し、それらについて、ゾーン会長やセントラル コーディネーターに定期的に報告する。プログラムは通常、ゾーン会長やセントラル コーディネーターの承認を得て行われる。

2. SSIOのプログラムに関する情報を広め、プラシャーンティ評議会(カウンシル)の発表、決定事項、推奨事項、ガイドラインをすべてのサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループに伝え、かつ、その内容を実施する。

3. 新しいサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの設立を奨励し、指導する。

4. 国内のすべてのサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの公認と加盟を行う。

5. SSIOの国内活動を調整、監督し、すべての活動がサティヤ サイ ババの教えと指示、および、SSIOのためになることに一致しているかを確かめる。

6. すべてのサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループが自分たちの目標をよりよく達成することができるよう、援助し、支え、励まし、手本を示して鼓舞する。

7. 依頼があった場合には、国内のISSE〔サティヤ サイ教育協会〕やサティヤ サイスクールの活動を認識して支え、ゾーン会長やセントラル コーディネーターにそれを知らせる。

8. すべての役員を対象としたリーダーシップ研修プログラムを開発し、実行する。

9. サティヤ サイ ババのメッセージと教えを分かち合うために、パブリック ミーティング〔公の場で行う開かれた集会〕を催す手はずを整える。

10. 7月から11月の間に、国の年次報告書を、ゾーン会長やセントラル コーディネーターを介してプラシャーンティ評議会(カウンシル)に提出する。加えて、SSIOが毎年行うオンライン年次調査が、指定された日付までに国の評議会(カウンシル)の会長、および、すべてのサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの会長によって正確に完了されることを確実にする。

11. 国内で実施された重要な活動についての報告書を、実施後すぐに、ゾーン会長やセントラル コーディネーターを介して、プラシャーンティ評議会(カウンシル)に提供する。

12. 役員／会員の活動や行動に関して、SSIOにとって最もためになることとは反対に、ガイドラインや運営マニュアルに違反していた場合には、ゾーン会長やセントラル コーディネーターの指導の下に何らかの行動を起こす。

13. 国の評議会(カウンシル)あるいは調整委員会で自らの自由意志の義務を放棄した役員、あるいは、自分に割り当てられた責務を履行できなかった役員、あるいは、サティヤ サイ ババの教えに反した行いをする役員を、会長は、ゾーン会長やセントラル コーディネーターの承認を得て、入れ替えることができる。

14. グル プールニマー祭とサティヤ サイ ババの御降誕祭の期間にプラシャーンティ評議会(カウンシル)が招集するプラシャーンティ ニラヤムでの会合に出席する。

15. 必要に応じて、随時、サティヤ サイ センターの会長を含む国のリーダーと会員の会合を開催する。

ゾーン、国、センター／グループの活動・催事・プログラムの報告

報告の概要： SSIOの活動は、透明性をもって、きちんと報告されることが重要です。

1. 国内的にも国際的にも、サティヤ サイの使命の認知度が高まっている。

2. 世界中のSSIOが行っている活動について、サティヤ サイ センターのすべての会員にタイムリーに情報を提供し続ける。これは会員にとって大きなインスピレーションの源となり、会員がSSIOの活動へのコミットメントを強めるための活気を与えることができる。こうした目的のために、SSIOはWebサイトとソーシャル メディア プラットフォーム（後述）をいくつか立ち上げており、すべての会員がこのことを周知すべきである。

この主な目的は、神聖な使命に対する意識を喚起すること、会員に奉仕すること、あらゆるレベルでオーガニゼーションを一つにすることです。これは、やる気を起こさせ、動機を与え、SSIOの聖なる活動への参加を促すでしょう。

レポート システム： サティヤ サイ センターは、国の評議会（カウンシル）やゾーン会長やセントラル コーディネーターの指導と援助を得て、地域社会で行われた活動をSSIOの適切な国際委員会に正確かつ速やかにレポートすることを求められています。レポートは、SSIOの国際委員会の規定に沿った、出版に適した基準を満たすようにします。レポートには、十分な説明と写真あるいは動画などが必要です。その詳細はSSIOのWebサイトでダウンロード可能なガイドラインに記載されています。

サティヤ サイ センターでの情報収集の効果的なシステム： どのサティヤ サイ センターも、国の評議会（カウンシル）やセントラル コーディネーターやゾーン会長へのレポートの収集、内容判断、提出の作業を、執筆、写真撮影、動画撮影のスキルのある会員に割り当てることが大切です。サティヤ サイ ヤング アダルトには、現場の状況に基づいて、この分野において最大限の機会を与えるようにします。

情報／連絡事項の伝達

SSIO内での効率的で効果的な連絡： 世界のSSIOの適切な管理を確実にするため、および、SSIOの会員の信愛と霊的気づきを養うために、プラシャーンティ評議会（カウンシル）は、必要に応じて、指導、励まし、援助を提供します。この目的のためには、SSIOのすべての会員とすべての帰依者に連絡がいきわたることが不可欠であり、それには、プラシャーンティ評議会（カウンシル）と世界のすべての会員／帰依者との間の、効率的で効果的な連絡システムが必要となります。したがって、各国のSSIOの役員が正確な連絡先リストを保持することは重要です。

SSIOの指導部と会員の間の双方向の連絡を容易にするために、SSIOの役員と会員の意見を、ゾーン会長、セントラル コーディネーター、国の評議会（カウンシル）会長、その他、メディアやパブリック アウトリーチやITのコーディネーターから、プラシャーンティ評議会（カウンシル）に伝えるようにします。

連絡コーディネーター： 必要があれば、ゾーン会長が情報／連絡事項を伝達するのを手助けするために、ゾーンで連絡コーディネーターを任命することができます。英語が広く話されたり読まれたりしていない国では、そうした情報／連絡事項を現地の言語に翻訳して、すべてのサティヤ サイ センターに行き渡らせます。

SSIOのロゴマーク

SSIOの新しいロゴマーク

SSIOの新しいロゴマークは、2017年2月に承認され、すべての国、すべてのレベルにおける、SSIOのすべての公式通信、手紙、文書、出版物、物品、芸術作品や文学作品、映画、Webサイト、ソーシャル メディア プラットフォームなどで、一律に使用するものとします。

新しいロゴマークには、サティヤ サイ ババが私たちに与えてくださった5つの普遍的な価値である、真実（サティヤ）、正しい行動（ダルマ）、平安（シャーンティ）、愛（プレーマ）、非暴力（アヒムサー）があしらわれています。上部に蓮の花の付いた背の高い塔は、サルヴァ ダルマ ストゥーパと呼ばれるものです。同心円の輪を持つこの塔は、ヨーガ、すなわち、神との結合を表しています。複数の輪は、「ハートの蓮の花」を開花させるために必要なヨーガの修養の諸様相を示しており、塔のてっぺんにあるのが、その蓮の花びらです。蓮の花の中心には内なる啓蒙の炎があります。蓮の花が汚れた水の中に生えていながらその水に汚されずにいるのと同じように、私たちは俗世に住みながらも汚されずにいるべきなのです。新しいロゴマークのデザインと配色は、SSIOの現代的なニーズを満たすものとなっています。

SSIOの以前のロゴマーク（現在は使用されていない）

このロゴマークは2006年に採用され、2017年2月までSSIO公式ロゴマークでした。

2006年以前は、世界の主要な宗教を表すロゴマークが使用されていました。そうしたロゴマークは、サティヤ サイ ババ（およびその諸変化形）の御名と共に、誤用を防ぐ目的で多くの国々で商標登録されています。

www.Sathyasai.org/trademark/trademark.html

重要なリソース

このセクションでは、サティヤ サイ ババの生涯と教え、およびSSIOについての公式なリソースを提供します。

A. サティヤ サイ ババの言葉と講話 〔英語〕：

- サティヤ サイ ヴァーヒニー シリーズ（www.sssbpt.info）
- サティヤ サイ スピークス シリーズ（www.sssbpt.info または www.sathyasai.org/media/ebooks）

〔日本語： sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/index.html〕

B. 情報とインスピレーションを得られるWebサイト 〔英語〕：

www.sathyasai.org	**サティヤ サイ国際オーガニゼーション** ゾーン、リージョン、国、その他のWebサイトへのリンクを含む。
www.saiuniverse.sathyasai.org	**サティヤ サイ ユニヴァース** サティヤ サイのボランティアによる霊性活動、教育活動、奉仕活動のレポート。
www.facebook.com/SathyaSaiUniverse	**サティヤ サイ ユニヴァースのフェイスブック**
www.sathyasaihumanitarianrelief.org	**サティヤ サイ人道救助** サティヤ サイ復興支援ボランティアによる災害救援のレポート。
www.srisathyasai.org.in	**シュリ サティヤ サイ セントラル トラスト** プラシャーンティ ニラヤムにある機関。
www.saicast.org	**サイ カスト** サティヤ サイの動画。
www.theprasanthireporter.org	**プラシャーンティ レポーター** プラシャーンティ ニラヤムでの催事をレポート。
www.sssbpt.org	**シュリ サティヤ サイ サーダナ信託（トラスト） 出版部** プラシャーンティ ニラヤムの本屋。
www.radiosai.org	**ラジオ サイ グローバル ハーモニー** Webページと24時間放送のオンライン ラジオ。オンライン ジャーナル「Heart 2 Heart」を含む。

C. 重要なサティヤ サイ オーガニゼーションの出版物：

- SSIO 年次報告（www.sathyasai.org 内）
- シュリ サティヤ サイ セントラル トラスト 年次報告（www.sathyasai.org.in 内）

D. SSIOのその他のリソース：

- スワミ〔サティヤ サイ ババ〕が兄へ宛てた1947年5月25日の手紙
  〔日本語：『サティヤ サイ ストーリー』p50〕

- 1967年4月21日にマドラスで開催された第1回シュリ サティヤ サイ セヴァ オーガニゼーション全インド会議での講話（Sathya Sai Speaks Vol.7 C18）
  〔日本語： https://sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19670421.html「サティヤ サイ セヴァ」〕

- 1968年5月17日にボンベイで開催されたシュリ サティヤ サイ セヴァ オーガニゼーション世界大会での講話（Sathya Sai Speaks Vol.8 C19）
  〔日本語： https://sathyasai.or.jp/mikotoba/discourses/d_19670421.html「啓示」〕

- サティヤ サイ国際オーガニゼーションの世界大会の決議

- サティヤ サイ ババとSSIOに関するSSIOの出版物
  〔日本語： https://sathyasai.or.jp/ssp/〕

第5章　SSIO内の一体性

サイの組織での主要な必要条件は、一体性とお互いへの信頼です。一体性があってこそ、世界の幸福を促進することができます。組織内に不和があるなら、どうやって他者に奉仕できますか？寛容をあなたが身に付ける宝飾品としなさい。愛を通して、あなたの悪い特質を取り除きなさい。

サティヤ サイ ババ、1993年10月7日

神への奉仕において神聖な使命を遂行する際に、次のヴェーダの祈りは、それをもって為すべき精神を示しています。「私たちが友好の中で生きられますように。共に動けますように。和と理解の中で共に生きることができますように。一体性と友情を育むことができますように」。一体性を持っているなら、どれほどの喜びを味わうことができるでしょう！ 一体性は力です。一体性を築くためには、自分たちは霊的に一つであるという意識を持たなければなりません。

サティヤ サイ ババ、1990年11月24日

一体性、純粋性、神性： SSIOの働きは神聖です。SSIOは、個々人の個別の意思を1つの意思に統合します。世界中のサティヤ サイ センター、サティヤ サイ信託（トラスト）、サティヤ サイ教育協会、サティヤ サイスクール等は、信愛、教育、奉仕活動を通じて世界中の何億という人々の霊的修養と個人の変容を促すために、愛と一体性の精神をもって共に働き、協力し合う必要があります。SSIOの諸ユニットは、国の法律とSSIOのガイドラインに従う必要があります。

不和の解決： 不和が生じる可能性があることに関して、サティヤ サイ ババは以下の指示を出されています。

私の願いは、あなた方の間でどんな小さな誤解が生じても、いつも愛と寛容を実践しながら、自分たちの間でそれを正すことです。激情に駆られて、物ごとを口論や派閥的な分裂の炎にして燃え上がらせてはなりません。あなた方は自分のハートを広くする修行、愛を表現することで神の御足に到達する修行に従事しているのだ、ということを認識しなさい。愛、寛容、謙虚さ、信仰、そして、尊敬の念を培わない限り、どうして神を顕現させることができるでしょう？

サティヤ サイ ババ、1970年11月20日

あなたの好き勝手に話してはいけません、それは他人の気持ちを傷つけるかもしれません。あなたが穏やかに話したり、優しく話したりすると、あなたに注意を払わない人もいるかもしれません。それはその人たちの宿命です。人は耳を傾けるかもしれませんし、そうでないかもしれませんが、あなたはいつも感じのよい話し方で話すべきです。それが不可能な場合には、黙っていなさい。黙っていれば、衝突はあり得ません。

サティヤ サイ ババ、2001年10月9日

過去は過去としましょう。（中略）今この瞬間から、嫉妬、慢心、憎しみをあなたのハートから捨て去って、その代わりに、ハートの中に愛と相互援助を植えつけなさい。

サティヤ サイ ババ〔1978年11月22日〕

最善の努力にもかかわらず不和が解決されない場合は、サティヤ サイ センターあるいはサティヤ サイ グループの会長が国の評議会（カウンシル）の会長に相談し、国の評議会（カウンシル）の会長はゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談することができます。国レベルでの意見の相違については、国の評議会（カウンシル）の会長がゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談するものとします。どちらの場合も、その目的は、合意を促進し、一体性への建設的な道筋を築くことです。必要に応じて、ゾーン会長は指導のためにプラシャーンティ評議会（カウンシル）に相談することができます。

第6章 サティヤ サイ センターのプログラムと活動

サティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループ

私たちの関係は、ハートとハート、そして、愛と愛のものであり、それ以外はありません。スワミ〔サティヤ サイ ババ〕は愛の権化です。スワミが重視しているのは愛であり、それ以外はありません。とりとめのない、無意味な話に価値を置いてはなりません。

サティヤ サイ ババ、1999年10月15日

信仰といえば、私は一つの警告を発しなければなりません。多くの人が、歓迎会を開くとか、寺院を建立するとか、儀式を行うといった目的のために、私の名前を使っていろいろな場所でお金を集めています。それは正式に認められたものではなく、私の意向と指示に反するものです。私が禁止しているそのような要求に負けたり、そうしたやり方を奨励したりしてはなりません。

サティヤ サイ ババ、1962年11月25日

SSIOへの所属： サティヤ サイ センターは主要な機関であり、オーガニゼーションの目標はセンターを通じて達成されます。センターは、国の評議会(カウンシル)あるいは調整委員会によって運営されている、国のSSIOに加盟します。サティヤ サイ センターの目的は、サティヤ サイ ババの教えを学び、内省し、実践するための場を提供すること、また、サティヤ サイ ババについての情報を一般の人々に提供することです。サティヤ サイ センターは規律正しい霊的(スピリチュアル)な生活を送る努力をしている人々、そして、毎週自分の時間とエネルギーのかなりの部分を貧しい人や苦しんでいる人のための無私の奉仕の行為に費やしたいと願う人々にとっての、中心となる場です。

サティヤ サイ グループ： 通常、サティヤ サイ ババの帰依者の数が9人未満3人以上(ただし同じ家族の一員でないこと)〔たとえば夫婦や親子は2名ではなく1名と数える〕で、かつ、SSIOの〔信愛・教育・奉仕部門のうち〕1つないし2つの部門の活動に従事している場合には、サティヤ サイ グループを発足し、国の評議会(カウンシル)あるいは調整委員会に加入を申請します。もし実施している活動が1つの部門だけの場合には、2つ目の部門の活動を計画するようにします。サティヤ サイ ババは人類を向上させるために自身の御名をオーガニゼーションに貸してくださっているのですから、国の評議会(カウンシル)の認定を受け、国の評議会(カウンシル)に加盟しているグループだけが、サティヤ サイ ババの御名とSSIOのロゴを使用することができるのです。

会場： サティヤ サイ センターの集会は、SSIOは新興宗教ではなく霊性(スピリチュアル)団体であるという事実を踏まえて、通常、特定の宗教とは関係のない会場で開催されます。必要に応じて、サティヤ サイ センターの集会は、個人の家あるいは公共の場で開催することもできます。いかなる場合であれ、サティヤ サイ センターの集会の会場は、清潔で健全な外観と十分な収容能力を備えていて、さらには、その地域中の会員が容易に来ることのできる場所にします。センターは決して会員を勧誘しないと同時に、人種、民族、社会階級、宗教の違いを問わず、純粋な霊性(スピリチュアリティ)の求道者すべてを愛をもって迎え入れます。

祭壇： サティヤ サイ センターの祭壇は、シンプルに飾ります。サティヤ サイ センターの祭壇は、サルヴァダルマのロゴマークに示されているサティヤ サイ ババの教えの普遍性の反映です。サティヤ サイ ババの写真が1枚あれば十分です。火を灯すことは任意です。サティヤ サイ ババはすべての人々の変容と霊的な向上のためにやって来られたのですから、サティヤ サイ センターのレイアウトや活動はその事実を表しているべきであり、1つの宗教、あるいは、特定のいくつかの宗教が好ましいとか、会員はそれらの宗教に従うべきだといっ

た誤解を避けるよう注意を払います。地元の習慣や事情によって必要とされる場合には、ゾーン会長やセントラル コーディネーターとの協議の上、地元の宗教の伝統の引用句／シンボルをサティヤ サイ センターに設置することができます。

規律： 礼拝と地域社会への奉仕の場としてのサティヤ サイ センターの神聖にふさわしいよう、サティヤ サイ ババとその教えによって定められた規律に従います。ですから、たとえば、男性と女性は別々に座って交流は最小限にし、参加者は服装と行動を控えめにして、サティヤ サイ センター内での自分の霊性（スピリチュアリティ）の学びと実践に焦点を合わせます。

サイとの「ハートとハート」の関係： サティヤ サイ ババは、自分が帰依者たちに意思伝達をする際に仲介者を用いることはない、と繰り返しおっしゃっています。むしろ、ババは一人ひとりの帰依者に「ハートからハートへ」の個人的な意思伝達をする、とおっしゃっています。したがって、帰依者たちは、自分はサティヤ サイ ババからのメッセージを受けているとか、自分は他者のための特別な「内的」導きを受けている、と主張する人は無視するよう忠告します。同様に、サティヤ サイ ババの御名のもとにマントラを授けたり、ヒーリングをしたり、結婚式を執り行ったりする権限を授けられた人は一人もいません。

普遍性

SSIOの使命： サティヤ サイ ババは、すべての存在を霊的に目覚めさせるためにやって来られました。実際、ババがプラシャーンティ評議会（カウンシル）を結成した時、ババはメンバー全員が世界の隅々まで行ってババのメッセージを分かち合うようにとお求めになりました。これは、サティヤ サイ センターの会員は他の人をサイの信奉者になるよう説得すべし、という意味ではありません。そうではなく、サティヤ サイの帰依者は、サイの普遍的な唯一性と無私の奉仕というメッセージを分かち合い、そのメッセージを正確に表現し、そのメッセージを生きる、という聖なる義務を負っているということです。

> **サティヤ サイ オーガニゼーションの会員は、神の別の御名と御姿に難癖をつけてはなりません。別の御名と御姿の栄光が見えない狂信者となってはなりません。そうした別の顕現に敬意を払い、すべての御名と御姿は私のものであるということを実証する集まりに参加すべきです。自分たちの信仰を手放すことなく、すべての人の喜びと幸福に寄与するようにしなさい。**
>
> **サティヤ サイ ババ、1968年5月18日**

SSIOは地元の組織： 同様に、サティヤ サイ ババは、サティヤ サイ センターはその国の文化を反映しなければならないとおっしゃっています。ババは、他の国々に植えられている「霊性（スピリチュアリティ）の木」を根絶すべきではないともおっしゃいました。私たちはババの教えの真髄を取り入れて、すべての国でそれを成長させるようにします。

こうした理由から、サティヤ サイ センターの集会、活動、慣行は、つねに普遍性というメッセージを反映しているべきであり、すべての会員およびゲストは、それを受け入れ、それを理解すべきであり、そうすることによって、すべての人々の間に一体性を促進するようにします。何か一つの宗教的伝統や信条に優位性が与えられることはありません。

ひとすじの信愛

> **いくつもの違った場所に浅い穴を掘って、自分は水を掘り当てることができなかったと嘆いてはなりません。一つの場所を、着実に、信仰心を持って掘り続けなさい。そうすれば、掘削（くっさく）用のドリルは地下の水脈を掘り当てることができるでしょう。**
>
> **サティヤ サイ ババ、1967年1月22日**

帰依の深さ： サティヤ サイ センターは、サティヤ サイ ババ以外の大師や霊性の師たちの正当性に対して深い敬意と認知を有すると同時に、サティヤ サイ ババの教えに焦点を当てます。会員、とりわけ役員は、他の霊性の師の講義やプログラムにいくつも参加するのではなく、サティヤ サイ ババの生涯と教えに専心し、サティヤ サイ センターの活動に真剣に参加することで、自分個人の変容を引き起こすようにします。たとえ他の霊性の師たちの教えの根本には大きな違いがないにしても、それらの団体が強調しているポイントや実践していることは違っている場合があるということを、心に留めておかなければなりません。

SSIOの独自性： サティヤ サイ センターの活動は、人間固有の神性を顕現させるために、真理／真実、正しい行い、平安、愛、非暴力という普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）を実践することの重要性を強調しています。サティヤ サイ センターは、欠くことのできない霊的サーダナ（修行）としての無私の奉仕を推進し、すべての創造物の一元性を見ることを目標に、諸宗教は一つであるということを打ち立てることを目指しています。

サティヤ サイ センターは、自分の信じている宗教の代わりにサティヤ サイ ババを崇めなければならないなどといった印象を作り出さないようにします。サティヤ サイ ババは、クリスチャンはより良いクリスチャンに、ヒンドゥー教徒はより良いヒンドゥー教徒になるようにさせるために自分はやって来た云々と、おっしゃっています。ですから、各人が本来備わっている神性を顕現できるよう会員を鼓舞するためにも、サティヤ サイ ババのメッセージの普遍性と、日常生活の中でそれを実践することに重点を置きます。サティヤ サイ センターはつねに、そのセンターのある地域社会の会員を歓迎し、可能な限り、地元の文化と習慣を反映させるようにします。

会員制

会員になるための資格は、霊性の向上を目指す熱心な求道者であること、組織が冠する御名〔サイの名前〕を完全に信じていること、〔中略〕 周囲から善良な人物との認識を得ていることです。これが必要な資格のすべてであって、他には何も考慮されません。

サティヤ サイ ババ、1967年4月21日

会員制の前提条件： 会費はなく、寄付を要求されることは決してありません。18歳以上であれば、ここに示すガイドラインをよく理解し、それに従おうとする真摯な意思を表明した上で、サティヤ サイ センターの会員になることができます。会員は、サティヤ サイ ババが制定なさった9つの行動規定と10の指針を実践し、そうすることによって、ババの教えの模範となること、そして、SSIOの主たる目的に貢献するための価値ある道具となるために最善を尽くすことが期待されます。実際的な霊性（スピリチュアリティ）は、私たちが生きて意識を持っている間の生活のあらゆる側面に、普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）を組み入れることを目指します。会員は進んでSSIOの規則と規制に従って行動するようにします。

9つの行動規定

1. 毎日、瞑想と祈りを行う。
2. 週に一度、可能であれば家族と共に、信愛の歌を歌うか祈りを行う。
3. サイ霊性（スピリチュアル）教育〔旧名称バールヴィカス〕に家族の子供を参加させる。
4. サティヤ サイ センターでの信愛の会に定期的に（最低でも月に一度は）参加する。
5. オーガニゼーションの地域社会奉仕や他のプログラムに参加する。
6. サティヤ サイ ババの文献を定期的に学ぶ。
7. 欲望に上限を設けること〔節制のプログラム〕――時間とお金と食べ物とエネルギーを無駄にする傾

向をなくすよう意識的につねに努力すること――を実践し、それによって蓄えたものを人類への奉仕に役立てる。

8. すべての人に優しく愛をもって話す。
9. 他者の悪口を言わない。特に本人がいないところで。

10の指針

（1985年11月21日の御講話の中でサティヤ サイ ババがお与えくださったもの〔の要約〕）

1. 自国を愛し、自国に仕えなさい。他者の国に対して批判的になってはなりません。
2. すべての宗教を敬いなさい。どの宗教も、同一の神に到達する道だからです。
3. 一切の差別をせず、万人を愛しなさい。全人類は1つの社会であると知りなさい。
4. 自分の家と周囲の環境を清潔に保ちなさい。
5. 人々の自立を助けなさい。病人やお年寄りに、食事と住むところ、愛と親切を施しなさい。
6. 賄賂を差し出して他者を惑わせたり、賄賂を受け取って自分をおとしめたりしてはいけません。
7. いかなる時にも、妬みや憎しみや羨望を抱いてはなりません。
8. 自分の必要を満たすのに他者に頼ってはなりません。他者に奉仕しようとする前に、自分自身の召し使いとなりなさい。
9. 神を崇め、罪を忌み嫌いなさい。
10. 自国の法律を守り、模範的な国民となりなさい。

会員制の目的： すべての会員、特に役員は、自らの個人的な霊的成長を実現するため、自分自身の生来の神性を悟って顕現させるため、そして、他者の霊的目覚めを支援するために、オーガニゼーションに参加しています。これらはサティヤ サイ センターのさまざまな活動によって十分に伸ばすことができます。各会員は、信仰と愛をもってサティヤ サイ ババの教えに従うことによって、サティヤ サイ ババとの関係を積極的に築きます。

サティヤ サイの帰依者は、怒り、貪欲、嫉妬、情欲といった否定的な性質を避けるよう努めます。なぜなら、これらは人の霊的生活にとって、また、万人の健康と福利にとって有害だからです。何らかの活動に参加している間にこれらの特性が顔を出した時には、帰依者の側の内省と個人的変容が求められます。

会員： 国内の法律および／またはサティヤ サイ センターが規定する文書が、会員名簿を保持すること、会員の権利と責務を規定することを要求している場合には、SSIOの中核である活動に熱心に参加した上で、初めてサティヤ サイ センターの会員になることができます。このことは、会員名簿を保持していないサティヤ サイ センターにも当てはまります。会員の承認に関して〔サティヤ サイ センターの〕委員会で合意が得られなかった場合、または委員会の決定に関する見直しが要求された場合には、サティヤ サイ センターの会長は、最終決定を下す前に、国の評議会（カウンシル）の会長（または任命された地域の役員）に相談するものとします。国の評議会（カウンシル）は、ゾーンの会長やセントラル コーディネーターと協議して、オーガニゼーションへの積極的参加を規定する拘束力のある基準を発行することができます。

以上を満たすことができない人は、非会員としてサティヤ サイ センターの活動に参加し続けることができます。

会員の除名： 上記の要件を満たさなくなり、サティヤ サイ センターの良好な機能を損なう行いをした会員は、内省によって自らを正し、役員の指示に従うようにします。繰り返し、または、深刻な違反行為が発生した場合には、会員が自分の行動を正してガイドラインに従うまで、サティヤ サイ センターの活動から離れることを要求することができます。

慈悲をかけず、あるいは、深く考えることをせずに、規則を強行してはいけません。（中略）相手が改心することができるよう、改心してグループに留まるチャンスを与えなさい。もしそれでも解決しない場合には、気にすることなく除名しなさい。自分の習慣、あるいは宗教的な事柄、特に私が与えた指示への無関心から、むしろサイの帰依者のグループの外にいたいと思う人は、誰も中に置いてはなりません。

サティヤ サイ ババ、Sathya Sai Speaks旧版 Vol.2 p159

サティヤ サイ センターの主な3つの部門〔翼／ウィング〕

サティヤ サイ センターの中心的な活動は、信愛、教育、奉仕という3つの部門〔翼／ウィング〕によって着手されます。これらは真我顕現のための3つの主要な道である、信愛（バクティ ヨーガ）、霊的英知（グニャーナ ヨーガ）、行為（カルマ ヨーガ）に相当します。会員は特定の部門に偏る傾向があるかもしれませんが、可能な限り、センターが行う3つの部門すべての活動に参加することが強く推奨されます。というのは、これらは会員の霊的成長にとって大切なものだからです。

信愛部

今、人は、神の栄光を歌い、歌われる神の御名を聞く、という霊性修行によって、解脱することができます。〔中略〕 皆で神の御名を歌うことは、グループのメンバーの解脱のプロセスを促進するだけでなく〔中略〕、 全世界がそのバイブレーションの恩恵にあずかることができるのです。

サティヤ サイ ババ、1982年1月26日

主は、「私の帰依者たちが歌う所、そこに私は腰を下ろす」と言いました。

サティヤ サイ ババ、1957年7月11日

信愛部は、人の信心、信愛、霊的知識の理解と実践を深めることを意図した、皆で信愛の歌（ディヴォーショナル ソング）を歌うこと、祈り、瞑想、サーダナ キャンプ、リトリート〔静修〕、異宗教間活動、新しく来た人へのプログラム、プラシャーンティニラヤムへの巡礼の主催、その他の活動に焦点を当てます。

油がランプの炎を灯すためにあるように、バクティ（神への信愛）はグニャーナ（霊的な知恵）の炎を灯すためにあります。

サティヤ サイ ババ、グニャーナ ヴァーヒニーp32

教育部

スタディーサークルとは、ただ単に本を読むことではありません。それは、一つの論点を取り上げて、それが自分にとってどのような意味を持つかを、円卓会議のように一人ひとりが論じることです。〔中略〕 スタディーサークルはさまざまに異なった面を見つめますが、〔中略〕 ダイヤモンドがそうであるように、そこから全体が見渡せるような平らな面が一つあります。この最上部の面を見つけることこそが、スタディーサークルの仕事です。

サティヤ サイ ババ

ヒスロップ著『バガヴァン シュリ サティヤ サイ ババとの対話』英語版p165–p166

目的：　教育部は、スタディーサークル、サティヤ サイ ババの教えの刊行物、主の教えに関するAV教材の作成を通して、サティヤ サイ ババの教えの学習と実践を促進します。国にISSE（サティヤ サイ教育協会）がない場合には、教育部が、SSIOの教育委員会とゾーンの指導の下に、地域社会でSSEHV（サティヤ サイ人間的価値教育）プログラムを実施します。ISSEがある場合には、教育部はSSEHVプログラムを地域社会に広めるための活動を支援します。教育部はサティヤ サイ センターのサイ霊性教育（SSE）〔バールヴィカス〕プログラムを監督します。

センターでは、6才から17才までの子供のために、サイ霊性教育〔バールヴィカス〕のクラスが提供されています。その目指すところは、子供が自分に本来備わっている価値を引き出して、その価値を実践するのを助けること（エデュケア）によって、人格形成と霊的変容を促すことです。子供たちは、(1)シュリ サティヤ サイ ババの生涯とその教えを学び、(2)他者に無私の奉仕をし、(3)さまざまな信仰は一つであることを受け入れ、(4)5つの普遍的な人間的価値を実践し、(5)自分の欲望に限度を設けることを実践します。さらに、子供たちは、両親を敬うこと、家での自分の義務をきちんと果たすこと、自国に忠誠を尽くし自国を誇りに思うこと、善良な人格を培うことの大切さを学びます。サイ霊性教育クラスを教える帰依者は、きちんとした研修を受けます。

バールヴィカスは、世界に正義（ダルマ）を復活させるための大きな運動の最も重要な土台です。それは、清らかでクリアな意識を持つ少年少女の世代をもたらし、（中略）高潔な習慣と考え方が育って実を結ぶことのできる環境作りをもたらします。

サティヤ サイ ババ、1978年6月6日

奉仕部

無私の奉仕は、まさに信愛の本質です。

サティヤ サイ ババ、1967年3月29日

無私の奉仕は、利己主義を治す最良の治療薬です。

サティヤ サイ ババ、1968年1月13日

無私の奉仕を最高の霊性修行と見なしなさい。〔中略〕 けれども、無私の奉仕によって世界を改善したり作り変えたりできると信じてはなりません。それはできるかもしれないし、できないかもしれません。それは大事なことではありません。無私の奉仕の真価、その最も目に見える結果は、無私の奉仕はあなた自身を改善し、あなたを作り変えるということです。無私の奉仕を霊性修行として行いなさい。そうすれば、あなたは謙虚になり、幸せになるでしょう。

サティヤ サイ ババ、1967年3月29日

奉仕は神への信愛のまさに真髄であり、信愛の目的は自分の生来の神性を顕現させることです。サティヤ サイ ババは、一つひとつの奉仕の行為は、無条件の愛をもって、かつ、奉仕される人の内に住む神に奉仕するという態度で行われるとき、大いなる霊的恩恵をもたらす、ということを強調なさっています。奉仕は第一のサーダナ（霊的修養）であり、内なる慈悲、愛、平安を花開かせ、エゴ〔自我意識〕を取り除くことを助けます。

会員は、地元のニーズに応じた奉仕活動に従事します。その中には、貧しい人や孤児や障害を持つ人への食料、水、衣類の提供、病院や介護施設やホームレス施設への訪問、医療キャンプや献血活動の主催、災害救援プログラム、恵まれない子供たちが通う学校やスラム街のお世話、地域社会開発や環境保護の実施への参加、刑務所訪問、生徒たちへの家庭教師や指導があります。

レディース セクション

男性は、女性を敬い、大切にすべきです。そうしたときに、初めて繁栄と幸福が訪れるのです。女性が涙を流す家は、それがどのような家であれ滅びます。男性は、精一杯女性を敬いながら人生を送らなければなりません。

サティヤ サイ ババ、1995年11月19日

サティヤ サイ ババは、古代の経典は女性を犠牲の権化と見なし、社会における卓越した地位を女性に与えていると、説かれています。子供にとっての最初の教師として、女性は、わが子が良い人格、神への愛、社会への奉仕を育むよう、子供の人生を形作ります。

地元の慣習や状況しだいで、サティヤ サイ センターにレディース セクションを設置することができます。設置は必須ではありません。レディース セクションは、信愛、教育、奉仕活動を持ち、サティヤ サイ センター内での自分たちの義務に集中するようにします。セクション コーディネーターと秘書を置くこともできます。

ヤング アダルト プログラム

1997年の世界青年大会の講話において、サティヤ サイ ババは、高潔な使命を果たす中でのヤング アダルト〔旧名称ユース〕の重要な役割を明らかになさいました。

今日の若者は国の将来のリーダーであり、新しい社会の建築家です。国民の将来は国の若者にかかっています。若者の強さは若者の愛国心しだいです。若者の第一の義務は社会に奉仕することです。若者の肉体的および精神的強さはその基盤であり、その上に国家は築かれるのです。

サティヤ サイ ババ、Sathya Sai Speaks.Vol.33 p18〔2000年1月14日〕

ヤング アダルトのための指針は**自己変容**です。サティヤ サイ ババは、この大きな使命を達成するための明確な道を明らかになさいました。サティヤ サイ ババはこうおっしゃいました。

世界の福利と進歩と平和を促進することは、若い男女の特権であり義務です。あなたの行動のすべてを神聖な義務へと変えなさい。神の愛を体験しなさい。それが「私の人生が私のメッセージです」というスワミの宣言の意味するところです。スワミがあなた方の前に置いた理想を守りなさい。

サティヤ サイ ババ、1997年7月16日

若者は人生の本当の目的を考えるべきです。若者は自分のハートの中にある不純物をすべて取り除きなさい。清らかなハートを携えて、若者はいつでもどこでも奉仕に乗り出すべきです。「手は社会の中へ、頭は森の中へ」。今日から、揺るぎない心と、さまようことのない目を培いなさい。それが世界を神々しいものにする方法です。

サティヤ サイ ババ、1997年7月16日

ですから、18歳から40歳までの帰依者に特有のいくつかのニーズを考慮して、サティヤ サイ ヤング アダルト(YA)プログラムは、若い男女が自分の家族、地域社会、国への奉仕をして、意味のある生活を送るよう奨励します。サティヤ サイ ババの生涯、教え、活動によって明らかにされた霊的原則を学び、実践することによって、そして、YAアドバイザーの指導を得ることで、YAは自らの霊的追求において前進することができます。YAにとって、まず重視すべきことは、信愛、教育、奉仕活動を通して善い人格を育むこと、および、個人の変容を遂げることです。

YAプログラムはサティヤ サイ オーガニゼーションの切り離すことのできない一部であり、ヤング アダルトはサティヤ サイ センターの活動に全面的に参加することが期待されています。

善良な仲間と霊的な共同体の一部でいることは、家族と地域社会の平和と繁栄に貢献するヤング アダルトが、健康、幸せ、生産性、霊性（スピリチュアリティ）への専心を培うために不可欠です。ですから、ヤング アダルトにとって一般的な活動は、サティヤ サイ ババの使命と教えと仕事に焦点を当てた集会を催すことです。

あなたの仲間を言ってみなさい、そうすれば、私はあなたがどんな人かを言い当てましょう！

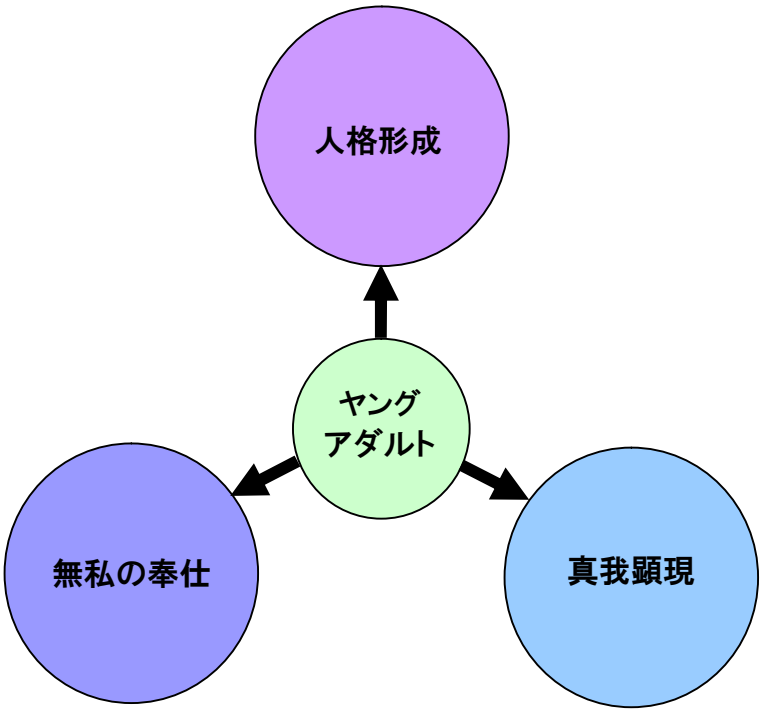
サティヤ サイ ババ、2007年7月28日

サティヤ サイYAの会合や集会は、社会的な目的ではなく、霊的（スピリチュアル）な目的の追求を中心に構成します。その集会の霊的（スピリチュアル）な焦点に沿って、YAは規律を維持することを要求されます。それはYAがサティヤ サイ ババの霊的な教えを吸収すること、そして、兄弟姉妹の一体性の絆を育むことを助けます。規律はシンプルで、次のものが含まれます。

1. 時間を守る。
2. 慎みのある、着心地のよい服装をする。
3. 丁寧な言葉使いと振る舞いをする。
4. 他人に敬意を示す。

規律の一部として、男性と女性のYA活動は、しばしば別々に行って、若い男女が自らの霊性（スピリチュアリティ）に集中できるようにし、性別にかかわりのある敏感なトピックについて話し合ったり、話を聞いたりする際に、安全な距離を保つようにします。

すべてのYA集会は、ヤング アダルトに潜在する才能と長所を引き出すために行われます。



したがって、YAの主な目的は次のとおりです。

1. **人格形成：** サティヤ サイ ババの普遍的な教えを学んで実践するための活動を生み出すこと。

お金を失っても、何も失いません。健康を失うと、いくらかを失います。人格を失うと、すべてを失います。

サティヤ サイ ババ、1999年5月30日

2. **無私の奉仕：** 自分たちの地元／地域／国の環境に適した無私の奉仕を通じて、地域社会、国、そして、世界に貢献する機会を提供すること。これは真我顕現の助けとなります。

今日から神への信仰を育てなさい。社会への献身的な奉仕に従事し、自分の人生を、苦悩している人や困窮している人にとって有意義な、役立つものとしなさい。誰に奉仕しようとも、あなたは神に奉仕しているのだということを忘れてはなりません。これが、皆さん全員に向けての私の祝福です。

サティヤ サイ ババ、1986年7月21日

世界の繁栄は、若い青年男女の人格を基盤としています。ですから、若い男女は、清らかなハートを携えて、国への無私の奉仕をするべきです。

サティヤ サイ ババ、〔1997年7月16日〕

3. **真我顕現：** 万物に生来備わっている神性を顕現させるために、共に働き、5つの普遍的な人間的価値（ヒューマン バリュー）である、真実／真理、正しい行い、平安、愛、非暴力を分かち合いながら生活すること。

すべての霊性修行の目的は、「私」の特性を発見することであり、それは、起きている状態、夢を見ている状態、熟睡状態という異なる状態すべてで体験されるものです。

サティヤ サイ ババ、1987年3月30日

「自分はアートマである」という真理への信念が堅固になったとき、解脱は一瞬にして得られます。いつも「スワミは私の中にいる。私はスワミの中にいる」と考えていなさい。ですが、揺れ動く心でこの真理を考えても何の役にも立ちません。定まった心で「私はスワミだ、私は神だ、私は神だ」と考えなさい。確信が固くなれば、あなたは、無属性、無垢、最後の住居、永遠、純粋、大悟、自由、神聖さの権化である、神へと到達します。

サティヤ サイ ババ、2007年7月28日

サティヤ サイ センターの役員

サイ オーガニゼーションに「ボス支配」の場はありません。役員であろうと役員以外の人であろうと、全員が等しく奉仕に従事するセーヴァカ〔無私の奉仕者〕です。この組織は、献身的な無私の奉仕に身を捧げる人を対象としています。（中略）自分を「召し使いの中の召し使い」と見なす謙虚さを備えた人だけが、本当の神の召し使いになれるのです。〔中略〕これまでサイ オーガニゼーションで成し遂げられてきたことは、すべて「アクティブ ワーカー」〔活発にSSIOの奉仕活動に携わっている働き手〕たちの地味な仕事によるものです。私は奉仕での皆さんの献身と犠牲をよくわかっています。私はそのようなワーカーたちにとても満足しています。

サティヤ サイ ババ、1987年11月21日

指導者に必要な技能： サティヤ サイ ババは、こうおっしゃっています。

この名と姿を持った現在のアヴァターに揺るぎない信仰心を抱いている男女だけを、オーガニゼーションのリーダーたちとして選ぶことができます。（中略）各ユニットの導き手（リーダー）は、ビジョンと熱意を持っているから導くのであって、票と分厚い財布を持っているから導くのではありません。

サティヤ サイ ババ、1970年1月13日

サティヤ サイのリーダーは、以下の特性を持つようにします。

1. 能力（やるべきことをやるスキルを持っているということ）。
2. 有用性（参加する時間と、興味と、熱意を持っているということ）
3. 人当たりのよさ（明るく、前向きで、良いチームプレーヤーであるということ）
4. 責任感（リーダーはサティヤ サイ ババとSSIOに対する責任があるため、自分の義務を、正しく、愛を込めて、すべての会員と帰依者のために自ら犠牲を払って果たすということ）

リーダーの選出とリーダーの責任： サティヤ サイ ババは、こうもおっしゃっています。

ひとたび平安と愛の雰囲気の中で人選されたなら、協力と寛容が広がるべきであり、さらには、皆が、選ばれた人の指示に従って、その人の指導を尊ぶべきです。そうして初めて、神の恩寵はあなた方に授けられるのです。

〔サティヤ サイ ババ、1970年11月21日〕

リーダーたちは、次のことのために、この機会を活用する偉大な責任を担います。

自分のエゴを克服すること、そして、神への道にある人々に良い刺激を与えること。

〔サティヤ サイ ババ、1971年5月14日〕

リーダーは、手本となって導き、親切に話し、謙虚に働き、可能な限り意見の一致を確立し、意見の相違を友好的に解決して誤解を避けます。

役員の前提条件： SSIOの役員になるために必要な条件は、次のとおりです。

1. サティヤ サイ ババの姿をとった神への信心、信愛、無条件の信頼を持っていること。
2. 9つの行動規定を実践していること。
3. サティヤ サイ ババの教えの生きた手本であること。
4. 愛をもって行動していること。

役員選出プロセス： サティヤ サイ センターの役員は、選挙ではなく選出によって選ばれます。選出委員会を、国の評議会（カウンシル）の会長（あるいは国に国内地域担当役員がいる場合はその役員）、サティヤ サイ センターの会長と副会長、ならびに、サティヤ サイ センターの会長によって選ばれた、役員でない会員2名によって、結成するものとします。

SSIOの会員でも、もしその男性／女性が、SSIOが従っているサティヤ サイ ババの霊的教えに反しているか一致していない他の組織の活動に関与している場合は、その人はSSIOの役員選出の対象にはなりません。

公平性と包括性を確保するために、選出委員会は、過去9か月間に積極的にサティヤ サイ センターの活動に参加した会員の中から候補者に来てもらい、役員として奉仕するにふさわしいと考えられる候補者リストを作成します。可能であれば、サティヤ サイ センターの運営と活動のための、新しい、建設的なアイデアを持っている人をリストに入れることを考慮するようにします。リストの公表後、選出委員会は、候補者の最終リストを作成する前に、候補者に関する会員たちからのオープンな意見と内密とする意見の両方を検討するものとします。

選出委員会の任務は、選出会の後もサティヤ サイ センターで愛と一体性が確実に維持できるように事を運

ぶようにします。役員は会員たちが候補者の最終リストから選出し、満場一致が求められます。選出委員会は、選出が行われている時に、選出者を書いたメモ用紙の提出を許可することができます。

もし候補者の最終リストの審査が要求された場合、または、3回試行しても選出プロセスで満場一致に至らなかった場合には、サティヤ サイ センターの役員を任命することのできる、国内地域の会長（もしいる場合）、あるいは、国の評議会（カウンシル）の会長に、問題を提出します。国の評議会（カウンシル）の会長は、ゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談することができます。両者は、候補者の最終リストを決定する権利、あるいは、サティヤ サイ センターの役員を任命する権利を有するものとします。

小規模のサティヤ サイ センターとサティヤ サイ グループの場合は、正式な選出委員会を結成する必要はなく、ゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談した後、国の評議会（カウンシル）が、アクティブな会員らによる公開討論による（またはメモ用紙を使っての）役員の選出を許可することができます。3回試行しても満場一致に至らなかった場合には、国の評議会（カウンシル）の会長がゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談するものとします。両者はサティヤ サイ センターの役員を任命する権利を有するものとします。

サティヤ サイの道具： サティヤ サイ ババは警告なさっています。

> **役職を、権威ある地位と見なしたり、信愛に対する「褒美」と見なすべきではありません。役職は謙虚さをもって引き受けて、メンバーや社会への愛をもって遂行しなければなりません。**
>
> **サティヤ サイ ババ、1968年5月18日**

> **神の召し使いでありなさい。そうすれば、あらゆる力と喜びが、あなたに付加されるでしょう。主人であろうとするならば、周りのすべての人々に、妬み、憎しみ、怒り、貪欲を呼び起こすでしょう。自分は神の手の中にある道具であると思って、神にあなたを形作らせ、神が知る最良の方法であなたを使ってもらいなさい。**
>
> **〔サティヤ サイ ババ、1968年11月21日〕**

委員会の構成： サティヤ サイ センターは、5人の役員、すなわち、会長、副会長、および、サティヤ サイ センターの各部門のコーディネーターとして、信愛コーディネーター、教育コーディネーター、奉仕コーディネーターを持ちます。サティヤ サイ グループは、規模に応じて、これよりも少数の役員を置くことができ、実際の役員の数はグループの構成員と必要によって決まります。加えて、サティヤ サイ センターは、特定のヤング アダルトの事柄と活動をコーディネートするためのヤング アダルトの代表者、および、レディース セクションのコーディネーター（レディース セクションがある所では）の代表者を置くことができます。

SSIOの役員は、その使命と価値に従ってオーガニゼーションを運営します。SSIOの役員は、本『ガイドライン』を用います。ここには、法的事項、行政事項、信託事項も含まれています（後ページ参照）。SSIOの役員は、サティヤ サイ ババの御名の神聖さとSSIOの尊厳を守るため、主要なリスクを特定し、それに対処します。

サティヤ サイ センターの役員の義務： サティヤ サイ センターの役員の責務は、サティヤ サイ センターが本『ガイドライン』と『運営マニュアル』に従って運営されることを確実にすることです。一体性、和、協力が、適切に管理されたサティヤ サイ センターの基礎を形成します。役員は、高潔で道徳的な人格を持ち、日常生活の中でサティヤ サイ ババの教えを実践することによって模範を示すことが期待されています。

サティヤ サイ センターの役員は、他の宗教や霊性団体の会員でいることはできますが、それらの団体の役員を務めることはできません。プロのヨガ教師や瞑想の教師、寺院の僧侶などは、サティヤ サイ センターの役員になることはできません。なぜなら、それらの専門職とサティヤ サイ ババの教えが混同される可能性があるからです。

5名の役員の義務は以下のとおりです。

会長は、サティヤ サイ センター内の管理権限を有する者であり、サティヤ サイ センターのあらゆる側面の責任を担います。手本となってリーダーシップを発揮すること、サティヤ サイ センターのプログラムに積極的に参加すること、サティヤ サイ センターの集会と活動をコーディネートすることは、会長の責務です。会長は、会員と非会員に、プラシャーンティ評議会（カウンシル）から受け取ったすべての公式な発表を速やかに広めます。他の組織からの情報チラシや発表は、サティヤ サイ センターの集会で読んだり配布したりしてはなりません。会長の義務には次のことが含まれます。

- サティヤ サイ センターがこのガイドラインに従って運営されることを確実にする。
- サティヤ サイ センターが、信愛、奉仕、そして、学習活動の全部が揃ったプログラムを維持していることを確実にする。
- 役員会議と、会員による計画会議を定期的に実施する。
- 地域、国内、国外のSSIO役員に、催し、報告、計画への支援を提供する。
- SSIOのプログラムに関する情報を広め、プラシャーンティ評議会（カウンシル）の発表、決定事項、推奨事項、ガイドラインを、すべての会員に伝え、かつ、その内容を実施する。
- ヤング アダルトがサティヤ サイ センターの活動に参加して、サティヤ サイ センター内での責任を担うよう鼓舞する。

副会長は、会長を補佐し、会長不在時には会長役を務めます。副会長が特別なプロジェクトの監視や開発、サティヤ サイ センターのニーズ（メディア、人道救助、パブリック アウトリーチのコーディネートなど）を担当し、会長が通常の日々の物事のお世話をすることもできます。

信愛コーディネーターは、前に述べたとおり、サティヤ サイ センターのさまざまな信愛の活動に対する責務を担います。信愛コーディネーターの義務は次のとおりです。

- 信愛の集会、および、信愛の歌の練習をコーディネートする。
- 新しく来た人を歓迎するための活動の発足と維持をする。
- サティヤ サイ センターの敷地内、および祭壇を、シンプルで、普遍的な、本『ガイドライン』に沿ったものに維持する。

教育コーディネーターは、サティヤ サイ センターでのサティヤ サイ ババの教えの学習と実践に対する責務を担います。そこには、前に述べたとおり、スタディーサークル、および、サティヤ サイ センターの6才から17才までの子供のために行われるSSE〔バールヴィカス〕プログラムが含まれます。

奉仕コーディネーターは、サティヤ サイ センターが行うさまざまな奉仕活動に対する責務を担います。そこには、その奉仕の必要性、会員の間に十分な関心があるかどうか、適切な人材と財源が存在するかどうかを判断することが含まれます。奉仕コーディネーターは、オーガニゼーションが国あるいは地域のプロジェクトを実施する場合、国内地域担当の奉仕コーディネーターと共に働きます。SSIOは自分たちの人材と財源内で奉仕活動に取り組むようにします。他の組織からの援助を求めてはなりません。場合によっては、サティヤ サイ ババの教えとSSIOのガイドラインを侵害しない限りにおいて、何らかの一般的な共同作業が必要になることはあります。

決断を下す際の満場一致： サティヤ サイ センターの役員（および国の評議会あるいは調整委員会）が重要な事柄について公平な公開議論を行った後も会員の間に意見の相違が残り、満場一致に至らなかった場合には、サティヤ サイ センターの会長（あるいは国の評議会あるいは調整委員会の会長）が最終決定を下すようにします。必要に応じて、サティヤ サイ センターの会長は、すべての意思決定における無執着と良心を確保するために、国の評議会の会長に相談するものとします。同じ理由により、国の評議会の会長はセントラル コーディネーターやゾーン会長に相談するものとします。

任期： 役員は通常2年間の任期で選出され、連続して2期を務めることができます。ただし、国の特別な事情に応じて、セントラル コーディネーターやゾーン会長が期間を変更することができます。

サイのみへの献身： サティヤ サイ ババは、サティヤ サイ センターの役員は他の霊性団体の役員となって奉仕すべきではないと指示なさっています。

役員の解任： 役員は、オーガニゼーションでの責務を果たす時、および、私生活の両方で、手本となって導き、サティヤ サイ ババの教えの実践における規律を身を持って示すことが期待されています。違反行為は、個人的な反省と年長の役員の指導によって正すようにします。しかし、繰り返し、あるいは重大な違反があった場合には、セントラル コーディネーターやゾーン会長の承認をもって、国の評議会あるいは調整委員会あるいはその代理人が、その役員を解任することができます。空席は、国の評議会あるいは調整委員会の指示に従って、任命または選出によって埋めることができます。

情報／連絡事項の伝達

国内のSSIOでの効率的かつ効果的な連絡： サティヤ サイ センターは、SSIOの目標を世界中で達成するための主要な手段です。すべての役員と会員が、サティヤ サイ ババの教え、そして、SSIOのグローバルおよび国内の原則、構造、慣行、活動を含むSSIOの主な目標を理解することは、重要です。この理解は、共通の目的を持ってサティヤ サイの使命に奉仕する中で、サティヤ サイ センターのすべての役員と会員の間の一体性の基盤を提供します。

国の評議会はその土地のSSIOの管理権限を有する者であるため、次のことが重要です。

1. 情報/連絡事項の伝達の一切は、サティヤ サイ ババの生涯と教えについてさらに大きな意識を広めるため、そして、上記にあるSSIOの主な目標をさらに進めるためにのみ、行われます。SSIOの活動に関する情報を積極的に伝達することによって、すべての役員と会員の間で愛と一体性を育むことが重要です。

2. 会員に広めるための、プラシャーンティ評議会あるいはゾーンのリーダーシップによる、すべての発表、決定事項、推薦事項、ガイドライン、プログラムを、すべての会員へのタイムリーな配布と行動のために、すべてのサティヤ サイ センターの会長に伝達します。

3. サティヤ サイ センターの会長、役員、会員の、すべての質問と意見、およびその反応――あるいは国と地域の他の問題――には、本ガイドラインの規定、プラシャーンティ評議会の発表、決定事項等々に照らし合わせて、一貫して明確に回答します。必要に応じて、会長はゾーン会長やセントラル コーディネーターに相談するようにします。

4. SSIOの公式な連絡とバガヴァンの教えだけを広めるようにします。他の組織からのメッセージを広めたり支持したりしないよう注意を要します。

パブリック アウトリーチ、メディア、アーカイブ、人道救助

SSIOは地域社会に貢献しています： プラシャーンティ評議会とSSSWFの指導の下、世界のSSIO、ISSE、サティヤ サイスクール、信託、財団、国際委員会は、自分たちの地域社会の中で、自分たちの人材と財源、および地域社会のニーズと状況に応じて働きます。こうした活動の唯一の目的は、人類に奉仕してサティヤ サイ ババの教えを分かち合うことであり、いかなる類であれ宣伝をすることではありません。SSIOは、地域社会の伝統と信仰を尊重し、地域社会の状況に敏感です。

サティヤ サイ センターは、こうした各分野の責務を担うコーディネーターを持つことができます。サティヤ サイ センターの他の義務を兼任してもかませいません。各分野のコーディネーターの仕事は、各部門の仕事と合同で行うことが可能です。各分野のコーディネーターは、地元の活動に関するタイムリーで正確な報告を、国の評議会を通じてプラシャーンティ評議会に提供します。

パブリック アウトリーチ： サティヤ サイ ババは、SSIOと帰依者全員に、ババのメッセージを広めて他の人々が 霊 性 の旅を前進することを助けるようにと、指示なさいました。この目的のために、SSIOは世界中でパブリック アウトリーチに取り組み、サティヤ サイ ババの5つの人間的価値の教えを通して地域社会を鼓舞しています。それらの活動には以下が含まれます。

1. 異宗教間の対話やコラボレーションや活動、たとえば、信仰の豊かなタペストリーを反映するセミナー、奉仕活動、音楽プログラム、演劇祭、聖歌隊、オーケストラなど。
2. スワミのメッセージとスワミの仕事を地元の地域社会と分かち合うための定期的なパブリックミーティング。新しく来た人を歓迎し、SSIOの活動についての情報を提供すること。
3. 地元、国内、国際レベルでの地域社会への取り組み。オンラインビデオ、テレビやラジオを含むあらゆる種類の一般的なメディアは、地域社会の参加を促進するために強く推奨されます。
4. 地域社会に受け入れられる場合には、いつでもウォーク フォー バリューズのイベントを開催する。これは、5つの普遍的な人間的価値の認識と実践を促進する地域社会での活動です。

メディア： その務めは、サティヤ サイ ババの生涯、メッセージ、仕事、および、地元のSSIOの活動に関する豊富な情報を築くために、文書、オーディオ、ビデオ、その他のメディアを収集、レビュー、編集、ソート、することです。 サティヤ サイ ババの教えとSSIOの仕事を効果的に広めるために妥当である場合には、しかるべき注意を払ってソーシャル ディアを活用することが認められています。この作業は、SSIOの国際メディア委員会の指導と監督の下に行うようにします。地元と国のSSIOは、世界中のSSIOの働きをすべての会員にタイムリーに分かち合う責務を担います。

アーカイブ： この目的は、神聖な思い出とサティヤ サイ ババとの直接の交流から学んだ教訓、および、世界中の帰依者が受け取った貴重な記念の品を、集めて保存することです。このアーカイブは、サティヤ サイ ババの生涯とメッセージのきわめて貴重な記述や、サティヤ サイ ババとの大切な経験を切望する、次の世代への奉仕です。

SSIOのアーカイブ委員会は、サティヤ サイ ババからの歴史的な手紙、文書、あるいは、その他の思い出に残る贈り物を集めて保管します。また、ババの珍しい写真、フィルム、ビデオ、録音、特に初期のもの、世界中のサティヤ サイ オーガニゼーションの歴史に関する情報、他の 霊 的 で歴史的な資料を集めます。アーカイブされた資料には、サティヤ サイ ババと個人的に対話して目の前で貴重な教訓を学んだ年長の帰依者へのインタビューが含まれます。これは今と将来において、サティヤ サイの帰依者個々人の霊性修行に有用です。これらを実行する上で、世界中のサティヤ サイ センターは不可欠な部分であり、情報源です。

すべてのサティヤ サイ センターは、SSIOのアーカイブ委員会の指導の下、こうした資料を収集、保存するというこの神聖な義務に参加することを奨励されています。

私はあなた方に、あなたができる限りの、あらゆる恩寵とあらゆる至福を集めて、それらを大切に心に刻むよう勧めています。そうすれば、あなたはその思い出と体験の甘さに浸って、自分を支えることができるからです。

サティヤ サイ ババ、1972年4月8日

人道救助： この第一の目的は、壊滅的な自然の出来事によって命がおびやかされた、その最も必要とされる時に人類同胞に奉仕することです。救助努力は、プラシャーンティ評議会(カウンシル)とSSSWFの指導の下に払われます。 SSIOが提供する奉仕には、次の3つの側面があります。まず、奉仕の費用は、通常、ボランティアが自己負担すること。第二に、愛と思いやりをもって奉仕を行うこと。第三に、SSIOのボランティアは、食糧、水、避難所、医療、衣類、物資、教育のニーズを含む、包括的な奉仕を提供することです。

Webサイトとソーシャル メディア

多くの国のSSIOとサティヤ サイ教育協会は、Webサイトとソーシャル メディア プラットフォームを持っています。それらは、サティヤ サイ ババの神聖な使命と教えに関するオンライン上の重要な情報源としての信憑性と情報の正確さを確実にするために、細心の注意が払われています。また、SSIOのWebサイトとソーシャル メディア プラットフォームは、そうした情報源の基準として照会されるため、高い基準のものを設置して、その水準を維持するよう注意を払います。会員と帰依者にSSIOの国内および国際のWebサイトを見るよう奨励することは重要です。国のWebサイトとソーシャル メディア プラットフォームは、SSIOのものを補完して、一貫性と統一性を確保するようにします。さらには、世界中のすべてのサティヤ サイ活動における一体性を反映させ、SSIOの国際Webサイトへのリンクも載せるようにします。

知的財産所有権

SSIOの重要なロゴマーク、サティヤ サイ ババという御名、およびプラシャーンティ評議会(カウンシル)によって推奨されている他の重要な名前は、SSIOの各国で商標登録されていることが不可欠です。こうした商標登録は、世界的に「シュリ サティヤ サイ世界財団(ワールド ファウンデーション)」の名前で行われることになっています。現地の法律で海外の団体が商標を登録することが許可されていない場合、あるいは、既存の登録がある場合には、できるだけ早くシュリ サティヤ サイ世界財団(ワールド ファウンデーション)に譲渡するものとします。

集会の種類と新しく来た人の歓迎

第7章

信愛の歌（バジャン）や他の集まりの際、男性の帰依者は女性の帰依者から離れて座らなければなりません。インド人であろうがなかろうが、インドであろうがよその国であろうが、この規則はすべての会員に適用されなければなりません。これは帰依者にとって必要な霊性修行の一部なのです。

サティヤ サイ ババ、1980年11月22日

センターの集会は、個人の家、および、特定の宗教と結び付いた礼拝場ではなく、一般の会場で行うのが望ましいことであり、推奨されます。これは、サティヤ サイ ババの教えは実際に普遍的なものであり、すべての宗教は根本的に1つであるということを強調しているからです。

定例会

毎週の信愛の歌：　一般的に、サティヤ サイ センターの集会は、1週間か2週間に1度、約90分にわたって行われます。通常、プログラムには、皆で祈りの言葉を唱えること、短時間の瞑想、皆で信愛の歌を歌うこと、スタディーサークル、お知らせが含まれます。プラシャーンティ ニラヤムで通常歌われているインドの信愛の歌（バジャン）は人気傾向にありますが、他の信仰の伝統や文化からの信愛の歌、特に地元の文化からの歌も歌うようにします。そうすれば、新しく来た人も主の栄光を歌うことに参加することができるからです。サティヤ サイ センターが地元の文化を進んで受け入れることは大切です。最も大切なのは、多くある神の御名を地域社会の人たちが理解できる言語で唱えることによって、注意を神に集中させることです。サティヤ サイ センターは、信愛の歌の質を高めるために、歌のクラスや練習セッションを提供することができます。

規律：　サティヤ サイ センターの集会は、参加者全員の、規律正しく、礼儀をわきまえた、敬意に満ちた振る舞いが求められます。そうすれば、信愛に満ちた適切な雰囲気が保たれ、誰もが集会の霊的（スピリチュアル）な目的に注意のすべてを向けることができるからです。サティヤ サイ ババのお説きになった勧告にしたがって、サティヤ サイ センターの集会では男性と女性は分かれて座ることが求められます。多くの帰依者は床に座ることを好みますが、椅子に座りたい人のために椅子も用意しておきます。

スタディーサークルの重要性：　すべての会員にとって、センターで行われるスタディーサークルに定期的に参加することは重要です。スタディーサークルの目的は、会員がサティヤ サイ ババの教えの理解を深め、それによって日常生活で教えを実践することです。スタディーサークルは定期的に行うようにします。サティヤ サイ ババの講話（特にサティヤ サイ スピークスや夏期講習からの講話）とヴァーヒニー シリーズ〔サティヤ サイ ババの著書〕の学習がスタディー サークルの基盤を形作るようにします。これらの学びは、SSIOの一体性と愛を促進する助けとなるでしょう。

会員ミーティング

サティヤ サイ センターのプログラムの計画を立て、プログラムについて話し合うため、また、その他の注意を要する問題について話し合うために、定期的に会員ミーティングを開きます。

客人の会

各サティヤ サイ センターは、1名か2名の会員を正式なおもてなし役として奉仕することができるよう養成することに加えて、新しく来た人がサティヤ サイ ババとサティヤ サイ センターのプログラムや活動をもっとよく知ることができるように、新しく来た人のための有意義なプログラムを実施することができます。そのプログラムには、認可を得た講演者による話、信愛の歌を歌うこと、体験談の分かち合い等を含むことができます。ビジターおよび新しく来た人は、定例の信愛の集会への参加を歓迎されます。

新しく来た人とビジターを歓迎する

自分は他の御姿や御名の神を崇拝する人たちとは違う別の宗派だなどと、公言して回ってはいけません。そうすることで、皆さんは、自分が激賞するまさにその神を制限することになってしまいます。「私たちはサイだけが欲しい。他には関心がない」などと狂信的に公言してはなりません。皆さんは、あらゆる姿はサイの姿であり、あらゆる名前はサイの名前であることに、確信をもたなければなりません。「他」は存在しません。すべては神です。

サティヤ サイ ババ、1968年5月17日

すべての人を歓迎する： サティヤ サイ ババは、新しく来た人はサティヤ サイ センターの中で最も重要な人物として扱われるべきであると、おっしゃっています。ですから私たちは、新しく来た人には愛と敬意のこもったお世話が必要であるということを認識しています。あらゆる信仰と宗教を背景に持つビジターと新参者を歓迎します。

サティヤ サイの普遍性を映し出す： サティヤ サイ センターに初めてやって来たビジターは、センターで使われている言語や伝統のいくつかに馴染みがないことがあります。ですから、ビジターには、普遍性と、一体性と、愛の雰囲気を体験してもらう必要があります。それらはまさしくサティヤ サイ ババのメッセージであり、それらがその人をサティヤ サイ センターに引き寄せたのです。集会の場、集会それ自体、そして、その人を歓迎する方法が、その印象を強めることができるようにします。

サティヤ サイの大会やリトリート

定期的にあらゆるレベル（ゾーン、リージョン、国内地域、サティヤ サイ センター）でのサイの大会／リトリート〔静修〕を開催することができます。そうすれば、より広範囲に住む帰依者が一同に集まることが可能になります。そうした大会／リトリートのオーガナイズと実施には、サティヤ サイ センターが大きな役割を果たします。それらの大会／リトリートは一般の人にも開かれています。

国際サティヤ サイ ヤング アダルト

第8章

国際ヤング アダルト評議会（IYAC）は、11のゾーンのヤング アダルト代表者、および、国際ヤング アダルトコーディネーター、国際ヤング アダルト副コーディネーターから成る、SSIOの国際委員会です。IYACは75ヶ国以上でサイ ヤング アダルト プログラムをコーディネートしており、何千人という活発なヤング アダルトの会員がいます。それらヤング アダルトたちは、SSIOと完全に一体であり、SSIOのあらゆる活動――信愛、教育、地域社会奉仕、人道救援の各プロジェクト――に参加しています。さらに、ヤング アダルトたちは、SSIO内のあらゆるレベルでリーダーの地位を保持しています。

サティヤ サイ ヤング アダルト プログラムを通じてヤング アダルトが世界中で行っている、ダイナミックで刺激的な活動がいくつかあります。ヤング アダルトたちは、人類同胞を助けることによって自分が霊的に高められるという理解をもって、世界中の各共同体でそれらの活動に従事しています。その活動には次のものが含まれます。

- **ヤング アダルト リーダーシップ育成：**

  私はあなたたちに、世界を守るリーダーになってもらいたいのです。自信と勇気と威厳と公正さを持った、ライオンのようなリーダーに。ライオンは百獣の王です。私はあなたたちに、人々の王となってもらいたいのです。

  サティヤ サイ ババ、1992年夏期講習

  2014年に開発されたサティヤ サイ国際ユース リーダーシップ プログラム（SSIYLP）は、ヤング アダルトに向けて、サティヤ サイ ババの教えに基づいたスタンダードなリーダーシップ養成を提供しています。そのコースは、9つのモジュール、6つのオンライン セッション、プラシャーンティ ニラヤムのSSSIHL〔サティヤ サイ大学〕での3つの屋内セッションを通じて、基礎知識と社会における実践の両方をカバーするものです。修了生は、その後、地元、リージョン、そして、国際的に行われているさまざまなプロジェクトで、地元の年長のリーダーや国際委員会と共に働きます。

- **愛のサーダナ：** 愛のサーダナ プログラムは、2016年のサティヤ サイ ワールド ユース フェスティバルのために特別にヤング アダルトのために開発されたもので、愛の実践を通じて真我顕現へと導く72の霊性修行を提示しています。この先導に触発されて、世界中のヤング アダルトが自分の霊性修行にこのプログラムを取り入れようという気になっています。このプログラムにはサティヤ サイ ババの普遍的で永遠のメッセージが含まれているので、SSIOの会員全員にも愛のサーダナ プログラムが取り入れられるようにすべきです。

  真のサーダナは、私たちのハートの中にある平安と真理と犠牲を認識すること、表すことにあります。

  〔出典不明〕

  あなたの愛を強めること、それが適切なサーダナです。

  〔出典不明〕

- **サーブ ザ プラネット〔地球への奉仕〕：** サーブ ザ プラネット(STP)は、2013年10月にSSIOのグローバルなパブリック アウトリーチ プロジェクトとして始められた、ヤング アダルト主導の奉仕活動です。これは、SSIOの会員が毎年10月20日あるいはその前後に、地域社会と協力して一つの共通テーマの奉仕プロジェクトに参加することを目指す、世界規模の奉仕プロジェクトをオーガナイズするものです。STPのテーマは普遍的な5つの人間的価値(ヒューマン バリュー)に基づいたもので、毎年変わります。

  静かに歩き、畏敬の念を持って動き、ありがたく活用しなさい。

  サティヤ サイ ババ、1966年10月15日

- **地元での奉仕プロジェクト：** ヤング アダルトが、自分の国で、無料食堂、災害救援、献血、医療キャンプ、その他、社会や環境や母なる自然を支える助けとなる活動を主導して、参加します。

  今日の若者は国の将来のリーダーであり、新しい社会の設計者です。国民の将来は、国の若者にかかっています。若者の強さは、若者の愛国の精神にあります。若者の第一の義務は、社会に奉仕することです。若者の肉体的および精神的強さはその基盤であり、国家はその上に築かれるのです。

  サティヤ サイ ババ、2000年1月14日

- **リトリートや大会：** 個々人が内的に豊かになれるよう、ヤング アダルトのやる気を起こさせる講演者と無類のプログラムを連ねたワークショップを、国あるいはゾーンでオーガナイズします。こうした催しは、サティヤ サイの教えをもっと深く学ぶための、そして、才能を伸ばすための、プラットフォームをヤング アダルトに提供します。

- **文化プログラム：** ヤング アダルトが、音楽コンサート、演劇、詩の朗読、信愛プログラム、ラジオ プログラムといった文化的なイベントを、自分の国でオーガナイズします。こうした催しは、ヤング アダルトに、興味を深める機会、才能を伸ばす機会を与え、また、霊的(スピリチュアル)な生活を送る中での特有の課題をヤング アダルトに呼びかけます。それらはまた、ヤング アダルトが一体性を実践してサティヤ サイ ババのメッセージを地域社会に広めることを可能にします。

- **SSIOのすべての委員会へのかかわり：** 上記のすべての活動とプログラムを通じて、ヤング アダルトはSSIOのすべての主流の活動の中にいます。

地域社会での サイの教育活動

第9章

サティヤ サイ人間的価値教育（SSEHV）の役割：　SSEHVは、初め、センターでサイの帰依者の子供のために行われているサイ霊性教育〔バールヴィカス〕プログラムを、帰依者でない子供向けに緩和したものとして始まりました。SSEHVは、私たちが特に教育の分野においてサティヤ サイ ババのメッセージを地域社会全体に分かち合うことを可能にするものです。人間の本質の側面である、真実／真理、正しい行い、平安、愛、非暴力という5つの普遍的な人間的価値の認識と実践が、その主な焦点です。これらの価値は、信仰に基づいた社会と信仰に基づいていない社会と文化にまたがって、普遍的に適用可能なものです。ですから、主な焦点は価値そのものとプログラムに置かれており、サティヤ サイ ババには置かれてはいません。サティヤ サイ ババはこの価値に基づいた教育プログラムの創設者として紹介され、昔からの由緒ある原則や慣行の教育者として認識されることができます。

SSEHV本来の重要性：　5つの人間的価値の適用は、状況と社会背景によって大きく異なります。たとえば、人間的価値は、青年期の霊的意識の向上、ダイナミック ペアレンティングの支援、企業やビジネスやプロの現場での社会的、倫理的な問題認識を高めることなどに、応用することができます。SSEHVの原則は、公立学校、私立学校、さまざまな地域社会プログラム、非行に走る可能性のある青少年のリハビリ、女性と片親の地位の向上、環境意識と社会的良心の向上に適用され、大きな成功を収めてきました。

SSEHVは、すべての信仰と宗教を等しく敬い、人格の向上として現れる、人の変容を促進します。SSEHVは、参加者に、内面の強さ、自信、高い自尊心といった、人間性と自然との普遍的な同一性から生じるものを植え付けることを目指しています。同時に、SSEHVは、自然に対する敬意と畏敬の念と、他者の権利を尊重する心を植え付けます。サイ霊性教育〔バールヴィカス〕と同様に、SSEHVに通う子供たちは、あらゆる信仰を敬うことを教わります。SSEHVは、欲望に上限を設けることを含む自己管理能力に、高い優先順位を置いています。SSEHVは、定期的に他人に無私の奉仕をすることを通じて、社会的良心と意志を強めます。SSEHVは、日常生活の中で5つの人間的価値を実践することによって、柔らかな優しい心を育みます。

学校でのSSEHV：　SSEHVを公立や私立学校に導入する際には、学校の管理者がプログラム実施に関する管理を行い、SSEHV教師は学校の使命を援助したり補強したりするためにプログラムを取り入れることに尽力します。SSEHVは、豊かな愛の環境を学校に提供し、それは学校運営のあらゆる側面に浸透します。その結果、学校は、学びと個人の変容のための、平安に満ちた場となり、そこでは、スタッフ、管理者、両親、教師の関係がポジティブな力で満ちるようになります。SSEHVの教授法は、学校の標準的な教え方に組み入れることも、特定の教科を通じて直に授業のためのレッスンプランに組み込むこともできます。一部の国においては、SSEHVは社会科の公民の教育の中に組み込まれています。

SSEHVの教師は、もし自分自身が生活の中で真剣に人間的価値を実践すれば、自分の職業と自分の幸福に、意義深いポジティブな変化がもたらされるということがわかります。

サティヤ サイ教育協会（ISSE）：　SSEHVプログラムは、国あるいはリージョンのサティヤ サイ教育協会（ISSE）が責務を担っています。―― 以下を参照のこと。

サティヤ サイ教育協会（ISSE）

役割： ISSEは、SSEHV教師を養成し、すべてのSSEHVプログラムの監督を行い、教師養成と教師認定に関しておおよその標準化と、品質保証を提供します。また、ISSEは、サティヤ サイ スクール以外の学校、教員養成機関、大学、教育省、適切な国際組織との、専門的なつながりを構築し、それを維持します。さらに、要請があった場合には、ISSEは、サティヤ サイ センターにおいて、養成と教材という形でサイ霊性教育（SSE）〔バールヴィカス〕の教師のためのサポートを提供します。

SSEHVのリソース： 各国の法的、文化的、教育的要件を満たすために、教師養成マニュアル、カリキュラム、レッスンプランが世界中で開発されています。ISSEは、そうした教材を定期的に見直して評価をしています。

監督： ISSEは、SSIOの教育委員会による直接の監督の下に働き、自国のSSIOと、活動の上での良好な関係を維持します。サティヤ サイ スクールとISSEの機能と管理は、SSIOが承認した包括的な教育ガイドラインによって導かれます。

サティヤ サイ スクール

機能： ISSEのもう1つの機能は、サイ スクールの育成であり、それはSSIOの教育委員会によって認定されます。サティヤ サイ スクールの包括的な目的は次のとおりです。

1. 5つの人間的価値が積極的に実践される環境、文化、エートス（道徳的慣習、気風）を創り出すこと。
2. 生徒の中にある人間の卓越性の潜在能力すべてが発揮されるよう促すこと。
3. 他校が見習うことのできる、教育的卓越性のモデルを提供すること。

目標： これらの目的を追求する中で、サティヤ サイ スクールは以下を促進します。

1. 人間的価値の手本となる教師。
2. 生徒と教師の霊的変容。
3. 学業の卓越。
4. 自分が育った文化と国に対する帰属意識と敬意。
5. さまざまな信仰は一つであるということへの正しい理解。
6. 社会的良心と、他者に無私の奉仕をしようという意欲。

地域社会におけるSSEHVの設置

地域社会でのSSEHVの普及： サティヤ サイ スクール以外の学校、たとえば、公立および私立学校、学内放課後プログラム、コミュニティ センター、未成年者更生施設、その他の適切であると思われる場所で、継続的にSSEHVクラスを実施することができます。また、SSEHVは、サティヤ サイ オーガニゼーションの奉仕部よって行われる医療キャンプに組み入れることもできます

ISSEは、地域社会のSSEHV教師のためのガイダンス、サポート、トレーニングを提供します。地域社会にSSEHVプログラムを設置し、実行するためのカリキュラムと教員養成マニュアルが、いくつかのセンターで開発

されています。また、地域社会でのSSEHVの目的は、公立と私立の学校におけるSSEHVの目的と同じです。

ティーンとヤング アダルトのためのSSEHV

ティーン〔13歳から19歳〕とヤング アダルト〔主に20歳以上の若い大人〕のためのSSEHVプログラムの実施は、世界中で着実に増えています。このプログラムのねらいは、数々の人生の難題への挑戦に立ち向かう強さと知恵を育て、リーダーシップのスキルを身につけることにあります。このクラスは、5つの人間的価値（ヒューマンバリュー）に焦点を当てながら、若者のリーダーシップ、チームの構築、内省、無私の奉仕を促進します。

サティヤ サイ ペアレンティング〔親としてのあり方／子育て〕

サティヤ サイ ババは、子供の全体観の発達において、両親の果たす役割が非常に重要であることを強調しています。それにしたがって、SSEHVの取り組みには、適切なペアレンティング〔親としてのあり方／子育て〕に焦点を当てることも含まれています。このクラスは、現代社会で育つ中で直面する多くのネガティブな影響に子供たちが対処できるよう、親が子供を手助けする準備を整えられるようにするものです。

第10章 法務、管理、信託の事項

寄付集めは、水と火のように、この運動(ムーブメント)とは相反するものです。もし、この点を許してしまえば、霊的進歩は消滅するでしょう。

サティヤ サイ ババ、1971年5月14日

お金の役割： すべてのサティヤ サイ センターの運営をガイドする最も重要な原則は、「できる限りお金を扱わないこと」です。会員の会費や活動費はありません。

一般への資金の呼びかけの禁止： 地域社会奉仕プロジェクトは、サティヤ サイ センターの人材と財源の範囲内でプロジェクトを実施することができるよう、サティヤ サイ センターの役員が慎重に計画し、十分に話し合います。ひとたびプロジェクトが合意に至ったら、希望があれば会員が無記名で献金できるよう準備を整えます。もし不足があった場合には、役員が不足を補うか、そのプロジェクトを取りやめるかします。サティヤ サイ センターの集会場所を借りる際の経費も、同様に処理します。いかなる場合であれ、資金、寄付、あるいは現金その他による貢献を求めて一般の人に呼びかけてはなりません。奉仕するのだという純粋な意図と、奉仕プロジェクトについて会員／帰依者に十分な情報を伝えることが、十分な資金を生み出すでしょう。

動機が良ければ資金が不足することはないでしょう。

サティヤ サイ ババ、1987年11月21日

財務管理： 寄付金を受け取ったり、そのお金をサティヤ サイ センターの維持費に使ったり、サティヤ サイ センターの活動／プロジェクトの支払いに充当したりした時には、きちんと財務記録を付け、現地の法律に従って会計処理を行って、サティヤ サイ センターは金銭面に関して潔癖であるという信頼を確保するようにします。SSSWFが特定の目的（災害救援など）のために資金を供与する時にはいつでも、それを受領した国のオーガニゼーションは、迅速な会計報告をSSIOに提供するようにします。

土地の購入： サティヤ サイ センターおよび信託(トラスト)を含む他のユニットは、事前にプラシャーンティ評議会(カウンシル)とシュリ サティヤ サイ世界財団(ワールド ファウンデーション)から書状による許可を得ていない限り、土地や建物、あらゆる類の不動産の購入資金の支払いのための募金をしてはなりません。

国の信託(トラスト)： 必要があれば、オーガニゼーションの資産を保有あるいは管理するため、あるいはオーガニゼーションの活動を実行するために、国の信託(トラスト)を設立するようにします。信託(トラスト)は、国の法律に従って設立し、必要に応じて、すべての財務管理を行い、SSIOをそういった務めから解放するようにします。信託(トラスト)の理事会は、皆から尊敬されている年長の帰依者たちによって形成されるようにします。SSIOがいつの時代にも一体となっていることを確実にするために、信託(トラスト)の理事会は、ゾーン会長とプラシャーンティ評議会(カウンシル)の承認の下、国の評議会(カウンシル)の会長やセントラル コーディネーターが任命するようにします。理事会には国の評議会(カウンシル)の会長の席を置くようにします。国の評議会(カウンシル)の会議には、信託(トラスト)の会長を招いて参加してもらうことができます。任命は時間を限定して行うようにします。こうした信託(トラスト)の設立に関しては、つねにゾーン会長に相談するようにします。

SATHYA SAI INTERNATIONAL ORGANISATION